

セントラルパーク基本計画（たたき台）

その 2

< 内容 >

第Ⅲ章 計画方針

第Ⅳ章 再整備計画

目 次

第Ⅰ章 計画の前提	1
1. 目的	1
2. 対象エリア	2
3. 計画期間	2
第Ⅱ章 与条件と課題の整理	3
1. 上位・関連計画での位置づけ	3
2. 現況把握	9
2-1 歴史的特性	9
2-2 自然的特性	19
2-3 社会的特性	33
2-4 施設の現況	45
2-5 管理運営の現況	67
2-6 利用状況	85
3. 利用者の意見	91
4. 課題の整理	93
4-1 周辺地域からの視点での課題	93
4-2 両公園における課題	96
第Ⅲ章 計画方針	103
1. 基本理念と基本的な方向性	103
(1) 基本理念	103
(2) 基本的な方向性	103
2. 利活用イメージ	104
(1) 利活用のキーワード	104
(2) 利活用イメージモデル	104
第Ⅳ章 再整備計画	117
1. 基本的な考え方	117
(1) 周辺地域の整備の方向性	118
(2) 歴史的特性からみた整備の方向性	121
(3) ゾーニング	122
(4) 主要な動線	125
(5) 主要な施設	126
(6) 両公園の整備方針	128

2. 動線計画	130
(1) 基本的な考え方	130
(2) 動線	130
(3) 幅員構成	131
3. 施設計画	132
3-1 来園者数の設定	132
3-2 便益施設計画	134
3-3 サイン計画	141
3-4 防災計画	142
3-5 植栽修景計画	143
3-6 設備計画	149
3-7 主要施設計画	150
(1) 大濠公園北側	151
(2) くじら公園～西側広場	153
(3) 舞鶴中学校跡地・城内住宅	155
(4) 舞鶴公園線沿線	157
(5) 福岡城本丸・二ノ丸周辺	159
(6) 鴻臚館跡	161
(7) 福岡高等裁判所	163
4. 再整備平面図	165

第Ⅴ章 管理運営計画 166

1. 基本的な考え方	166
(1) 管理運営の方向性	166
(2) 管理運営方針	167
2. 企画運営計画	170
(1) 企画運営の基本的事項	170
(2) エリアごとの企画運営目標	172
(3) 両公園を巡る利用プログラム	178
3. 維持管理計画	182
(1) 維持管理の基本的事項	182
(2) 区域ごとの維持管理目標	185
4. 地域連携・体制づくり	190
(1) まちづくりとの一体化	190
(2) 民間活力による魅力づくり	191
(3) 県民・市民共働の運営体制・仕組みづくり	192

第Ⅵ章 将来像の実現に向けて

1. 事業スケジュール
2. 将来像の実現に向けた課題

第Ⅲ章 計画方針

1. 基本理念と基本的な方向性

本計画では、上位計画である「セントラルパーク構想」の基本理念と基本的な方向性を踏襲することとします。

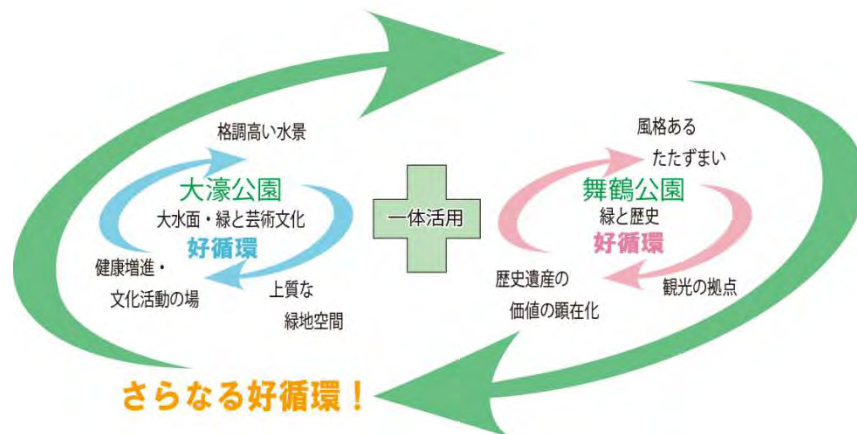
(1) 基本理念

福岡を代表する個性を有する二つの公園を一体的に活用することによって、時・人・まちをつなぎ、福岡の都市と文化を物語る場所となることを目指し

時をわたり、人をつなごう。
～未来へつながる福岡のシンボルへ～

を基本理念として掲げます。

大濠公園と舞鶴公園が持つそれぞれの個性を磨き上げるとともに、二つの公園の一体的な活用を図ることによってさらなる好循環を生み出し、都市の活性化につなげていきます。



(2) 基本的な方向性

本計画に求められている課題を解決し、福岡の都市の個性と文化を物語る場所となるよう、基本的な方向性を次のように設定します。

- 大濠公園・舞鶴公園一帯の**空間をつなぎ**、一体感のある緑地空間づくり
- 福岡にしかない重層的な歴史資源を活かし、福岡二千年の**時をたどる**空間づくり
- 観光集客機能の向上による**にぎわいをつくり**、都市の活性化につなげる拠点づくり
- 「まちの公園」から「公園のまち」へ展開し、**みんなで育てる**公園づくり

2. 利活用イメージ

(1) 利活用のキーワード

「Ⅱ章 与条件と課題の整理」から読み取ることができる、大濠公園と舞鶴公園の今後の利活用の促進に向けたキーワードを、4つの基本的な方向性毎に整理します。



図：利活用のキーワード

(2) 利活用イメージモデル

前項のキーワードが、具体的にはどのような人々に対して、どのような利活用へと反映されていくのか、計画期間にとどまらない将来の利活用イメージを11の視点から次頁に示します。また、利活用イメージを実現していくために検討すべき項目を合わせて整理します。

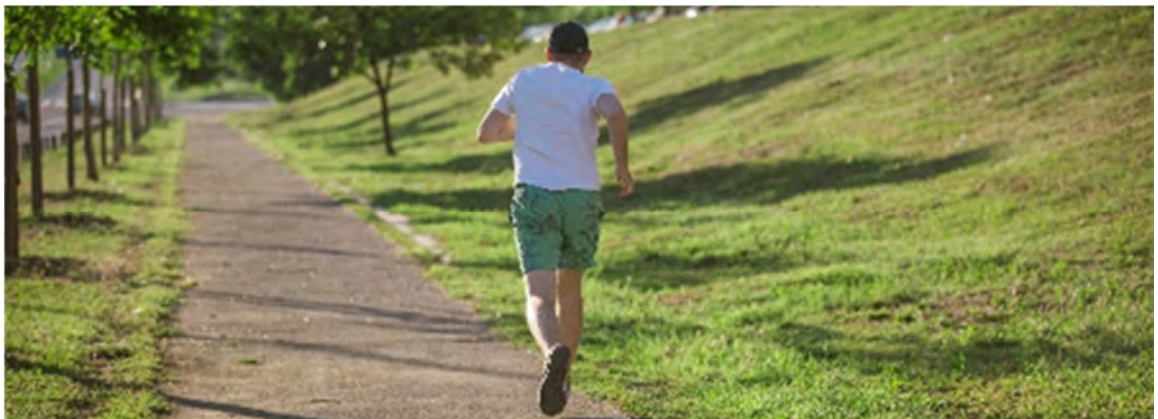
モデル①

■利用者： 仕事帰りのジョガー

■将来の利活用イメージ

ジョギングの聖地

- ・19時。いつものように、スーツからランニングウェアに着替え、コースに出る。運動不足解消のため、**仕事終わりにセントラルパークをジョギング**したのが始まりだった。
- ・公園内には**ランニングステーション**があり、ロッカーはもちろんシャワーも完備してあるので、仕事終わりにスーツ姿で直行できるのがとてもいい。
- ・大濠公園は以前からジョギングやウォーキングをする人が多かったが、**舞鶴公園も含めたコース**が作られてから、さらに利用する人が増えた。コースが広がったことで、**緑の風景、水辺の風景、歴史の風景**と様々な風景を楽しむことができ、飽きずに気分良く走れることが理由の一つだろう。
- ・もう一つの理由は**安心して走れる**ということだ。ここは、歩行者、ジョギング、ペット、自転車と様々な人が利用しているが、舗装や路面表示など**利用者に応じたコース作り**が徹底されていて、結果的に**マナーも守られている**というわけである。また、園内は**ライトアップ**もされていて、**女性や高齢者も安心して**利用できるため、夜間の利用者も多い。
- ・さらに、ジョガーの間で人気に火をつけたのが、**周辺にあるスポーツショップ**である。お洒落で機能的なウェアやアイテムを身に着け、この場所で体を動かすということが**ブランド化**してきている。
- ・最近では、体力もついてきたため、**休日には西公園や南公園方面まで走る**ようになった。西公園や南公園までをつなぐ通りは歩きやすく、緑にあふれ、**立ち並ぶ店舗も公園の雰囲気**に合ったお店が多くなった。
- ・自分自身の健康のために始めたことが、今やセントラルパークのブランドを形作っていると思うと、今後もさらに気分よく走れそうだ。



■利活用イメージ実現のために検討すべき項目

- | | |
|--------------------------|----------------|
| ・ランニングステーションなどの便益施設の設置 | ・公園周辺の施設との連携 |
| ・舞鶴公園のジョギングコースの設置、動線の一体化 | ・公園のブランド化 |
| ・利用者ニーズと安全性に配慮したコース設定 | ・周辺との緑のつながりの確保 |

モデル②

■利用者： 周辺の小学校教員

■将来の利活用イメージ

都心部の生き物の大きな家

- ・セントラルパークは都心部の中で豊かな水と緑があるため、**様々な生物と触れ合うことができる貴重な場所**だ。
- ・そのため、**総合学習**の一環として周辺の学校の多くがセントラルパークに訪れている。
- ・私が勤めている学校でも毎年訪れており、生徒達も恒例の授業として楽しみにしている。
- ・最近、管理運営の一環として、**生物多様性の保全と来園者が自然とふれあえる環境づくり**が盛んに行われるようになってから、鳥の増加や多様な植生が見られるようになっていいる。また、生物の専門家のボランティアガイドの方々が生徒達に様々な生物の生態などについて教えてくれるプログラムも設けられている。
- ・生徒達に特に人気があるのは**水辺を活用した観察プログラム**だ。都心部では珍しく**安全に水辺に近づく**ことができ、普段は間近で見ることができない動物や植物を観察することができるため、生徒達は目を輝かせて参加している。
- ・他にも、**季節の植物**を楽しむ観察プログラムや珍しい植物、大木・古木などの植物に関わるプログラムも豊富にあり、プログラムごとに様々な自然の魅力を伝えてくれる。
- ・セントラルパークが都心部で自然にふれあえる貴重な場所であり続け、その魅力を維持・向上して行くことが子ども達の成長につながると考えると、公園や周囲の環境保全に貢献していきたいと感じる。



■利活用イメージ実現のために検討すべき項目

- ・ボランティアガイドが活動しやすい環境づくり
- ・生物の生育環境の保存と向上
- ・公園の特性や参加者のニーズに合わせた利用プログラムの増加
- ・水辺を活用したイベントやプログラムの増加

モデル③

■利用者： 車でピクニックに訪れた家族連れ

■将来の利活用イメージ

休日を過ごしたくなる憩いの場

- ・連休を利用して、朝から家族4人でセントラルパークにピクニックにやってきた。
- ・車で公園に近づくにつれて、**道沿いの緑が増え、店舗は統一感のあるおしゃれな外観**で揃えられている。さらに進むと、豊かな緑や史跡の風景が見え、その脇に公園の入口が見えてきた。
- ・入口に近づくと、駐車場への誘導サインがすぐに目に入った。満車で入庫待ちを予想していたが、スムーズに停めることができた。**十分な駐車スペース**は、小さな子どもがいて荷物が多い家族にはとてもありがたい。
- ・車を降りると、**花や緑で彩られた園路**が続いており、花壇では**ボランティア**と思われる人たちが楽しそうに手入れをしている。花が大好きな娘は一緒に花を植えてみたいようだ。
- ・以前は住宅が建っていたという**広場**に着くと、連休とあって**多くの人でにぎわっている**。読書をする女性、走りまわっている子どもたち、楽器の練習をしている学生と、みな思い思いの時間を過ごしている。
- ・私たちがさっそく**お弁当を広げ、大濠公園の水面や福岡城の石垣の風景を楽しみながら食事をする**ことにした。豊かな自然の中で、歴史の雰囲気を感じながらのんびりしていると、福岡の都心にいるということを忘れてしまいそうになった。



■利活用イメージ実現のために検討すべき項目

- ・周辺地域と連携した緑化推進
- ・街並みや建物の低層部の用途誘導
- ・車両にもわかりやすいエントランスの整備
- ・適切な駐車台数の確保
- ・季節感を楽しむことができる花々の演出
- ・施設移転跡地の広場活用
- ・石垣や水面への見通しの確保

モデル④

■利用者： 歴史好きの来訪者

■将来の利活用イメージ

●歴史散策の範囲を広域的に展開

●鴻臚館跡、福岡城跡の重要性について強調

古代より連なる福岡の歴史舞台

- ・ 1泊2日の妻との福岡旅行は、福岡の歴史を巡る旅がテーマである。
- ・ 昨日は太宰府市の古代の史跡と、朝倉市の秋月城下町を巡った。今日は**博多や天神の黒田家ゆかりのコース**を歩き、**福岡の歴史のシンボルである鴻臚館跡と福岡城跡**に向かう。
- ・ 宿泊していた百道の高層ホテルから眺める福岡の街並みは、水と緑であふれており、大濠公園・舞鶴公園へは**歩いていく**ことにした。
- ・ 舞鶴公園までやってくると、**ガイダンス施設**があったので、まずは概要を知ることにした。施設内の展示物や地図**には、鴻臚館跡と福岡城跡それぞれの歴史や、周辺の関連史跡との歴史的なつながり**がわかりやすく解説されている。古代には鴻臚館と大宰府を結んでいた官道があったと知り、その時代の姿に思いを馳せた。**黒田家とその分家が拠点としていた福岡城と秋月城**の関係も興味深い。
- ・ 私たちはガイダンス施設で**ボランティアガイドの人に案内**を頼むことにして、**複数あるプログラム**の中から、目的に合った、鴻臚館跡・福岡城跡双方の歴史を学べるものを選んだ。
- ・ ガイドの人の説明を聞きながら、鴻臚館跡の復元整備や福岡城跡の石垣などのポイントを見ていくと、この地にある**歴史の重層性**が分かり福岡という地のおもしろさを感じた。
- ・ 一通り見て回ったあと、**園内の休憩所**で昼食をとることにした。**休憩所では鴻臚館跡と福岡城跡の両方を見ながら食事**をすることができ、私は当時の人々の様子に思いを馳せながら、妻はおいしい食事に感動しながら、互いに満足した時間となった。
- ・ **ガーデニングが好きな妻は、公園内の樹木がよく手入れされていることにも感心していた。**私たちが各施設に支払った料金で手入れの行き届いた環境が保たれているようだ。
- ・ 食事の後は、**家族にお土産**も買うことができ、福岡旅行の最高の締めくくりとなった。



■利活用イメージ実現のために検討すべき項目

- ・ 周辺の歴史資源との連携
- ・ ガイダンス施設の設置
- ・ 歴史の重要性を感じる復元整備
- ・ 利用プログラムの充実
- ・ **シンボルとしての遺構**の復元
- ・ 櫓や石垣などの見所の魅力向上
- ・ 施設利用料金の徴収
- ・ 飲食、物販などの便益施設の**検討**
- ・ 公園周辺から連続的に回遊できる空間形成

モデル⑤

■利用者： アジアからの団体客

■将来の利活用イメージ

アジアを代表する観光地

- ・ここ数年アジアでは、古代の大陸との交易をたどるツアーとして、博多港から大濠公園・舞鶴公園、太宰府などをセットで巡ることが福岡観光の主流となっている。
- ・私も 30 人の団体客の 1 人として福岡を初めて訪れた。クルーズ船から眺めた福岡の港の景色は緑が多く、水辺を楽しむ人々の姿がとても印象的だった。きっと素敵な街なのだろうと、大濠公園・舞鶴公園に向かう大型バスの中、期待に胸を膨らませた。
- ・大濠公園・舞鶴公園に着くと、大型バスが収容できる駐車場にバスが停められ、私たちは公園内に降り立った。公園内は水と緑が豊かで美しく、構造物のデザインにも統一感があって、福岡の人がこの両公園を愛していることが、デザインからも見てとれる。
- ・公園内のサインが英語で書かれていたり、多言語表記に対応したデジタルサイネージが設置され、私たちのような海外からの観光客にもわかりやすいのがあるがたい。
- ・このツアーの見所の一つである鴻臚館跡では、遠い昔に大陸から訪れた客人が、ここどのように迎え入れられたか、歴史をたどることができる。語学だけでなく歴史にも通じた通訳ガイドに案内を頼むこともでき、この場所の歴史だけでなく、母国との関わりまでより深く理解することができた。古代の風景をイメージしながら現在の風景と比較すると、アジアの先進都市である福岡の歴史の深さを感じた。
- ・園内ではWi-fiが整備されているのはもちろん、ビューポイントには史跡に配慮してカメラ台が置かれていて、リアルタイムで母国にいる知り合いにその様子を楽しんでいる自分の姿を伝えることができた。



■利活用イメージ実現のために検討すべき項目

- ・外国人観光客の誘致と利便性の向上
- ・周辺の観光資源との連携
- ・大型バス駐車場の確保
- ・構造物のデザインの統一
- ・鴻臚館跡の機能復元
- ・多言語表記への対応

モデル⑥

■利用者： 県外からアート作品巡りに訪れた人

■将来の利活用イメージ

●より広範囲で芸術やデザインを楽しめるまちの描写を追加

●子供たちが芸術にふれあっている描写を追加

アート巡りの拠点

- ・日本の芸術や文化に興味があり、美術館や能楽堂、日本庭園などの芸術文化施設が集まっていることで有名なセントラルパークに、休みを利用して一人訪れた。
- ・福岡空港や博多駅などの交通拠点から、地下鉄一本で最寄駅まで行くこともできるが、今回は天神駅で降りて、ショッピングを楽しみながら歩いて向かうことにした。
- ・天神駅から公園に向かう途中にはギャラリーやセレクトショップが多く、セントラルパークを中心としてまち全体からアートの雰囲気を感じる。公園に近づいてくると緑豊かな景色が広がり、公園内を巡りたくなる気持ちが高まる。
- ・私の場合、各施設の情報や見所について、英語のホームページで事前に調べていたので特に不安はなかったが、園内には総合案内板をはじめ、随所に丁寧な案内がなされているので、初めてきた人も安心するだろう。
- ・公園の総合管理事務所で受け取った、芸術文化をテーマとするパンフレットを見ると、そこに書かれたコースに沿っていけば、様々なアート作品に出会えるようになっている。このような案内があると、作品を見落としてしまうことがないので、とてもありがたい。
- ・また、園路沿いの小さな広場では、大道芸や楽器演奏などの小規模なアートイベントが行われており、公園に遊びに来ていた子供たちは、食い入るように眺めている。小さな頃から身近でアートに触れ合える環境があるのは素晴らしいことだと思う。
- ・セントラルパークを楽しんだ後は、バスで福岡市博物館に行く予定だったけれど、公園の中にいるような福岡の街の景色を楽しみながら引き続き歩くことにしよう。



■利活用イメージ実現のために検討すべき項目

- ・芸術文化に関わる施設の強化
- ・公共交通からのアクセス向上
- ・エントランス部の魅力の向上
- ・テーマごとの散策コース設定
- ・小規模イベントが行える広場の確保
- ・情報発信の強化
- ・公園内のわかりやすい情報案内
- ・合同管理事務所の設置
- ・芸術文化施設の広域的な連携の強化

モデル⑦

■利用者： イベント企画者

■将来の利活用イメージ

福岡でのイベントならセントラルパーク

- ・近年、**福岡で大規模イベント**を開催するならセントラルパークで、というのが企画・運営関係者の間で通例になっている。
- ・その理由は、立地も良く**イベントしやすい環境**が整っていることにある。福岡の都心で大規模イベントできるスペースが増えたことに加え、交通拠点からアクセスしやすく、さらに**跡地を利用した広場**で、自然や歴史の雰囲気に触れながら、にぎわいイベントを楽しめるとあって、イベント参加者からの評価が高いからだ。
- ・最近では、**天神や博多エリア、護国神社**で行われていた**既存のイベントと連携**する機会が増えており、新しく生まれ変わった**六本松エリア**とは、特に連携する機会が多くなった。
- ・フリーペーパーや雑誌などのメディアを活用した**頻度の高い広報**や、**イベント企画者と公園管理者の協働**により、**受入れ人数の増加**や**新たなターゲットの確保**、**プログラムの充実**が図られ、経済効果も大きくなっていると、他県からの問い合わせも増えている。
- ・これらの協働の積み重ねによってセントラルパークの**知名度**も上がり、今では観光・集客資源として、福岡の活性化の一翼を担っている。



■利活用イメージ実現のために検討すべき項目

- ・交通拠点からのアクセス向上
- ・様々なイベントに対応できる広場空間の整備
- ・イベントをしやすい仕組みづくり
- ・イベント企画者と公園管理者の連携
- ・周辺地域との連携

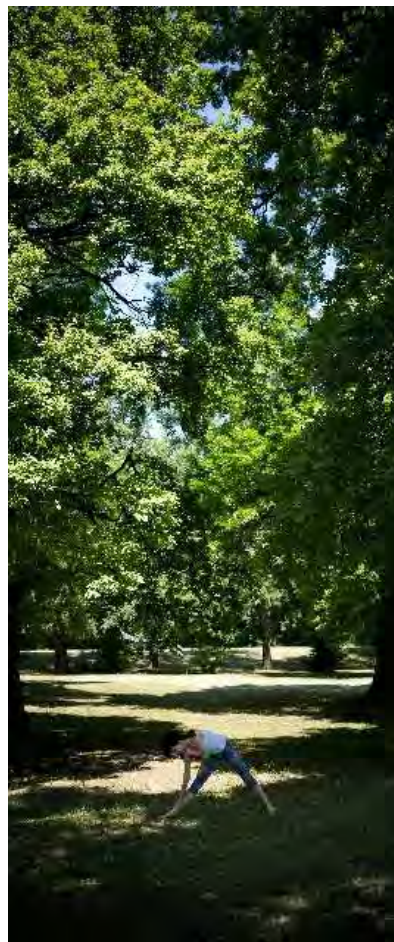
モデル⑧

■利用者： 周辺のヨガスタジオ経営者

■将来の利活用イメージ

企業連携のステージ

- ・私は大濠公園・舞鶴公園の周辺でヨガスタジオを経営している。経営を始めた頃はマンションの1室を使用した小さなスタジオだったが、今ではビルの1フロアの広さになりヨガウェアなどを扱うショップも併設した、福岡でも有数の大きなスタジオになった。
- ・スタジオの生徒数が増えたのは、大濠公園・舞鶴公園がきれいになって、大手門側からも**アクセスしやすくなり**、公園への人の流れが増えたからだと思う。
- ・スポーツショップやジョギングステーションなど、**公園の機能と一体となった店舗が公園周辺部で増加**しているのも同じ理由だろう。
- ・何年か前から、**公園内で野外レッスン**も行うようになり、広い緑の芝生のうで行うヨガはとても気持ちがいいと、特に若い女性に人気だ。
- ・生徒以外でも公園内でヨガをする人たちが、ウェアやマットを買いにくるので、ショップもにぎわっている。
- ・という訳で、セントラルパークにはとても魅力を感じているため、数年前から**公園に寄付**をし始めた。寄付金の一部が、私たちがヨガを行っている**広場の管理**に使われていると思うと、**寄付しがいがある**。
- ・ショップカードや私の名刺には、寄付をした特典として、**セントラルパークのロゴ**が入っているので、初めて会う人との話の種になって助かることもしばしばある。



■利活用イメージ実現のために検討すべき項目

- ・公園の魅力を活用した周辺企業との関わり強化
- ・利用者が活動しやすい芝生広場の確保
- ・周辺企業と連携したイベントの実施
- ・企業からの寄付などを初めとした公園運営の仕組みづくり

モデル⑨

■利用者： ボランティア

■将来の利活用イメージ

ボランティアの舞台

- ・今日は花壇の植え替えを行うために、セントラルパークにやってきた。私は**ボランティア組織**「(仮称) セントラルパークを育てる会」のメンバーとして、活動している。
- ・以前から大濠公園・舞鶴公園では、それぞれボランティアが組織されていたが、数年前に**二つの公園が一貫した管理運営**が行われるようになったことをきっかけに、**ボランティアも一つの組織として統一**されることとなった。
- ・もちろん、それぞれのボランティア活動は継続されつつ、今日の花壇の手入れのように、**両公園で一貫した活動**も行われるようになった。おかげで、花壇などは景観的にも統一感があるように感じられ、来園者も季節ごとの変化を楽しんでもらっているようだ。
- ・公園管理者や公園内施設関係者、ボランティアなどの**連絡体制も整理**されたため、**色々な組織と連携した活動**も充実している。
- ・また、私たち**ボランティアの活動拠点**も公園内にできたので、着替えや活動の準備だけでなく、日常的な連絡事項の確認や情報共有もスムーズにできるようになった。
- ・施設の整備や共通の活動のおかげで、ボランティア同士の**交流**も増え、最近では組織としての一体感も出てきたように感じる。
- ・これからも活動を通して、ボランティア同士の交流を深めながら、セントラルパークの環境を育んでいきたい。



■利活用イメージ実現のために検討すべき項目

- ・両公園で連携した管理運営体制の確立
- ・両公園の様々な関係者間での連絡体制の整理
- ・ボランティア活動の拠点となる施設の整備
- ・組織間での連携が行いやすい環境づくり

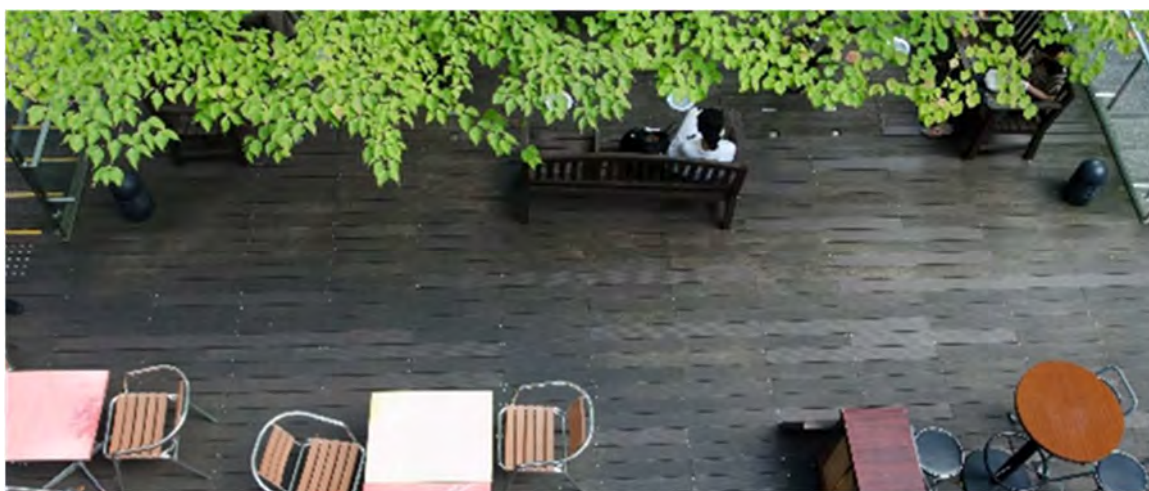
モデル⑩

■利用者： 周辺の土地所有者

■将来の利活用イメージ

魅力づくりに貢献したくなる公園

- ・お堀沿いの道を歩くと、いつも公園に**立ち寄りたいという気持ちになる**。光を反射した水面に木々が影を写し、夏には蓮の花が咲き、訪れた人の**撮影スポット**となっている。
- ・私がオーナーであるセントラルパーク沿いのビルには、テナントとしてカフェが入っている。カフェにはテラス席があり、**水や緑、史跡の雰囲気を感じながら食事を楽しめる**ため、テラス席を予約するお客さんが多い。
- ・このように、**明治通りに並ぶ店舗やオフィス、周辺の住宅地などは、立地をうまく活用した建物が多い**。大きな公園に近く、窓から水と緑の風景を楽しむことができる環境は、商業施設はもちろんオフィスや住宅の環境としても魅力的だ。
- ・セントラルパークには**ファンドレーザー**という寄付金を回収する専門家の存在があり、私のような土地所有者や企業、個人などが寄付を積極的に行っている。
- ・私は**手入れの行き届いた美しい公園**の景色を眺めると、寄付金が適切に使われているといつも実感する。**セントラルパークが魅力的であるほど私が持っているビルも含めた周辺の地価が上がり**、ひいては**福岡のまちの活性化**に貢献していることを考えると、寄付は投資のような側面も持っている。
- ・寄付の金額によって、セントラルパークの定期通信やイベントへの特別招待、オリジナルグッズの限定販売など、**様々な特典**を受けられるのも寄付のしがいがある。
- ・これからも、周辺に住まう私たちにとっても、ゆとりのある環境であり続けてほしい。



■利活用イメージ実現のために検討すべき項目

- ・沿道から魅力を感じられる空間づくり
- ・公園の魅力の波及範囲の拡大
- ・水質の向上
- ・寄付をはじめとした公園運営に関わる専門家の配置
- ・公園及び周辺の資産価値の向上

モデル⑪

■利用者： 公園の近くに住む親子

■将来の利活用イメージ

利用者に愛される公園

- ・ 思えば、物心ついたときから大濠公園・舞鶴公園は私の遊び場だった。祖父の散歩についてきては、日が暮れるまで園内を走りまわっていた記憶がある。
- ・ そして夕暮れ時に、二人でベンチに腰掛け、水辺を見ながら**様々な野鳥**の名前を教えてもらったり、**植物や虫**の名前を教えてもらったりしたものだった。
- ・ あれから私は父となり、小さな2人の子どもを連れて、相変わらずこの場所に通っている。
- ・ 今子どもたちと一緒に座っている**ベンチは、昔祖父とよく座った場所に、子どもが生まれた年に寄付した**ものだ。ベンチには子どもの生年月日を刻印してもらっている。将来孫が生まれたら、自分と子どもと孫と一緒に座りたい。
- ・ 祖父はセントラルパークが私たちにとって**憩いの場**になっているだけでなく、**災害時の避難場所**になっていることも教えてくれた。今は私が子どもたちに、災害があったときにはここに逃げるように、と教えている。
- ・ 私が祖父にそうしてもらったように、子どもたちにとって、ここが大人になっても大切な場所であるように、たくさんの思い出をつくってあげたい。



■利活用イメージ実現のために検討すべき項目

- ・ 生物多様性の保全
- ・ 公園に対する愛着を醸成する仕組み
- ・ 利用者が寄付などによって公園運営に貢献できる仕組み
- ・ 広域避難場所としての周知や機能確保

表：利活用イメージモデルの整理

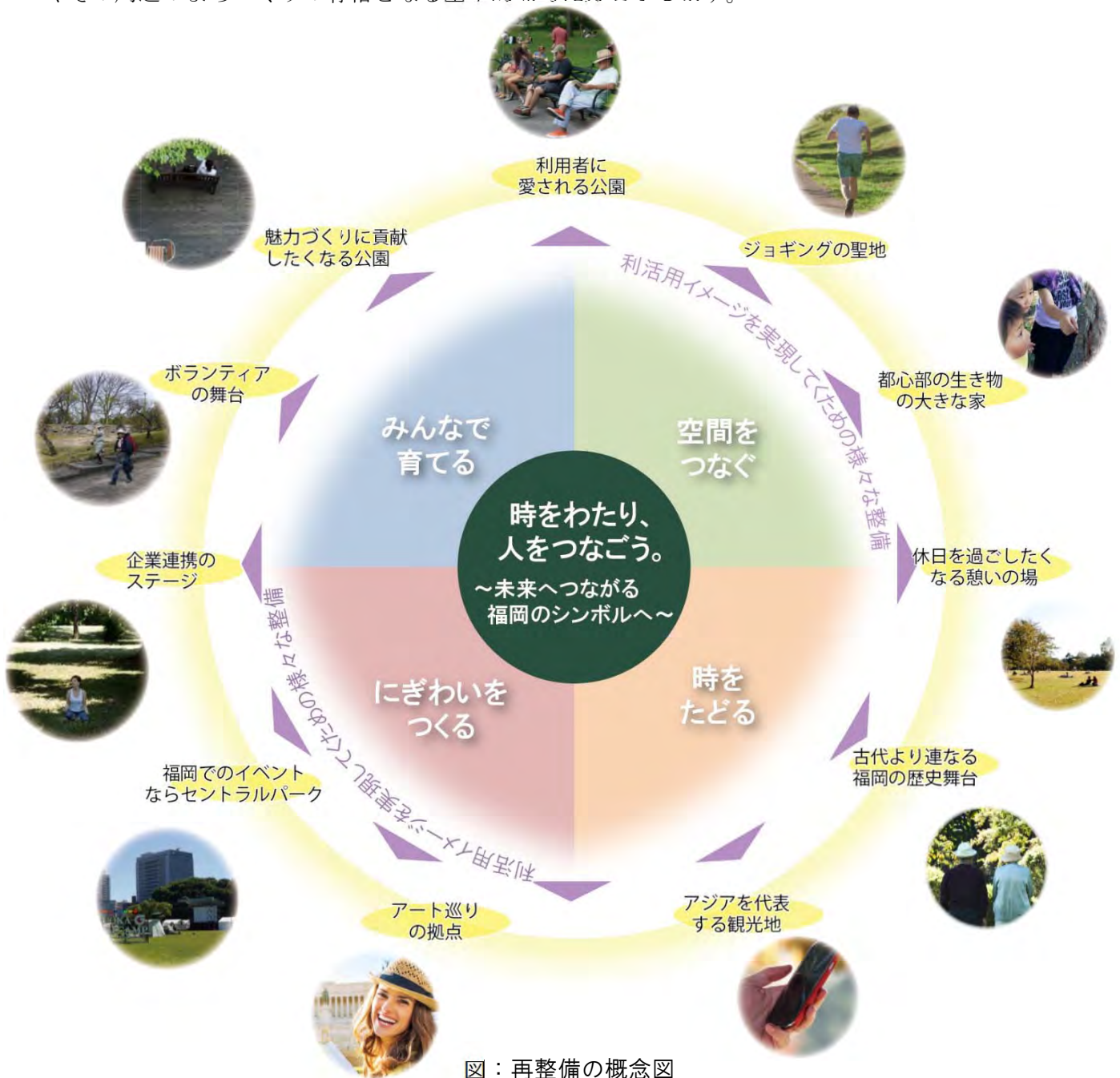
番号	利用者	将来の利活用イメージ	実現のための検討項目
①	仕事帰りのジョガー	ジョギングの聖地	・ランニングステーションなどの便益施設の設置 ・舞鶴公園のジョギングコースの設置、動線の一体化 ・利用者ニーズと安全性に配慮したコース設定 ・公園周辺の施設との連携 ・公園のブランド化 ・周辺との緑のつながりの確保
②	周辺の小学校教員	都心部の生き物の大きな家	・ボランティアガイドが活動しやすい環境づくり ・生物の生育環境の保存と向上 ・公園の特性や参加者のニーズに合わせた利用プログラムの増加 ・水辺を活用したイベントやプログラムの増加
③	車でピクニックに訪れた家族連れ	休日を過ごしたくなる憩いの場	・周辺地域と連携した緑化推進 ・街並みや建物の低層部の用途誘導 ・車両にもわかりやすいエントランスの整備 ・適切な駐車台数の確保 ・季節感を楽しむことができる花々の演出 ・施設移転跡地の広場活用 ・石垣や水面への見通しの確保
④	歴史好きの来訪者	古代より連なる福岡の歴史舞台	・周辺の歴史資源との連携 ・ガイダンス施設の設置 ・歴史の重要性を感じる復元整備 ・利用プログラムの充実 ・シンボルとしての遺構復元 ・櫓や石垣などの見所の魅力向上 ・施設利用料金の徴収 ・飲食、物販などの便益施設の設置 ・公園周辺から連続的に回遊できる空間形成
⑤	アジアからの団体客	アジアを代表する観光地	・外国人観光客の誘致と利便性の向上 ・周辺の観光資源との連携 ・大型バス駐車場の確保 ・構造物のデザインの統一 ・鴻臚館跡の機能復元 ・多言語表記への対応
⑥	県外からアート作品巡りに訪れた人	アート巡りの拠点	・芸術文化に関わる施設の強化 ・公共交通からのアクセス向上 ・エントランス部の魅力の向上 ・テーマごとの散策コース設定 ・小規模イベントが行える広場の確保 ・情報発信の強化 ・公園内のわかりやすい情報案内 ・合同管理事務所の設置 ・芸術文化施設の広域的な連携の強化
⑦	イベント企画者	福岡でのイベントならセントラルパーク	・交通拠点からのアクセス向上 ・様々なイベントに対応できる広場空間の整備 ・イベントをしやすい仕組みづくり ・イベント企画者と公園管理者の連携 ・周辺地域との連携
⑧	周辺のヨガスタジオ経営者	企業連携のステージ	・公園の魅力を活用した周辺企業との関わり強化 ・利用者が活動しやすい芝生広場の確保 ・周辺企業と連携したイベントの実施 ・企業からの寄付などを初めとした公園運営の仕組みづくり
⑨	ボランティア	ボランティアの舞台	・両公園で連携した管理運営体制の確立 ・両公園の様々な関係者間での連絡体制の整理 ・ボランティア活動の拠点となる施設の整備 ・組織間での連携が行いやすい環境づくり
⑩	周辺の土地所有者	魅力づくりに貢献したくなる公園	・沿道から魅力を感じられる空間づくり ・水質の向上 ・公園及び周辺の資産価値の向上 ・公園の魅力の波及範囲の拡大 ・寄付をはじめとした公園運営に関わる専門家の配置
⑪	公園の近くに住む親子	利用者に愛される公園	・生物多様性の保全 ・公園に対する愛着を醸成する仕組み ・利用者が寄付などによって公園運営に貢献できる仕組み ・広域避難場所としての周知や機能確保

第Ⅳ章 再整備計画

1. 基本的な考え方

ここでは、将来の利活用イメージの実現に向けて、どのようなまちづくりや空間づくりを展開していくか、整備の観点から内容の整理を行います。

周辺地域の整備に向けての基本的な考え方を示すとともに、場所ごとの特性に応じてセントラルパーク構想で示したゾーニングを細分化し、主要な動線や主要な施設との関係性など、両公園やその周辺のまちづくりの骨格となる基本的な考え方を示します。



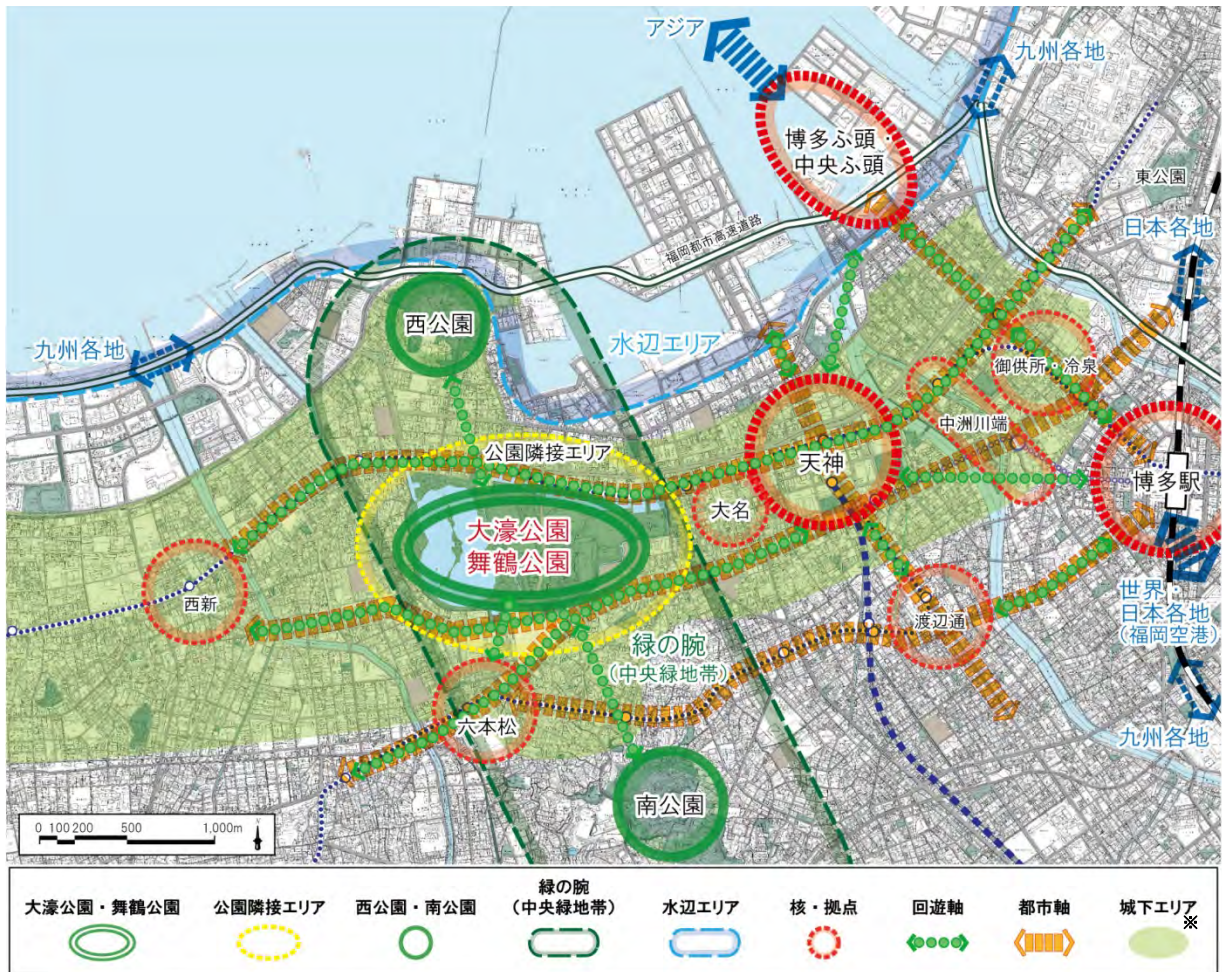
図：再整備の概念図

- 考え方の参考した既存計画を追記
- 事業の推進体制の考え方を追記

(1) 周辺地域の整備の方向性

①整備の考え方

「福岡市都市計画マスタープラン」(平成26年5月改定)と「福岡市新・緑の基本計画」をベースに、大濠公園・舞鶴公園の一体的な活用によりその効果が波及し、「まちの公園」から「公園のまち」へと展開していくための考え方を示します。なお、この方向性に基づく大濠公園・舞鶴公園の範囲外の事業については、内容ごとに所管部署との連携を図りながら推進していきます。



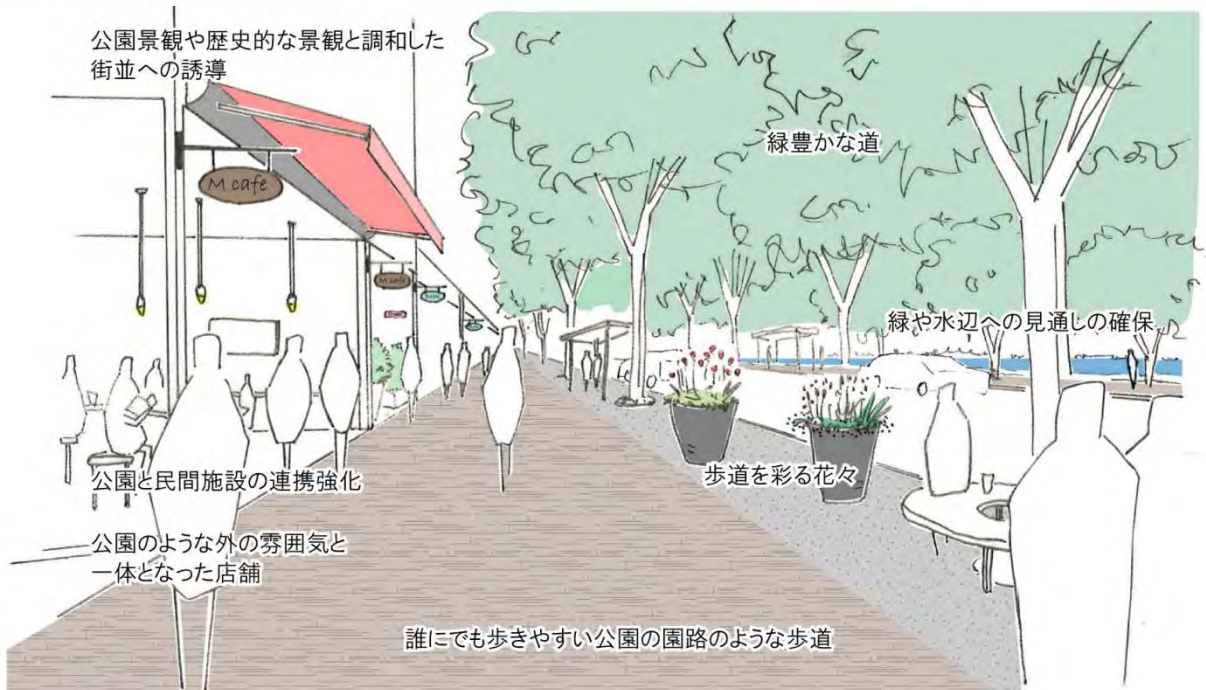
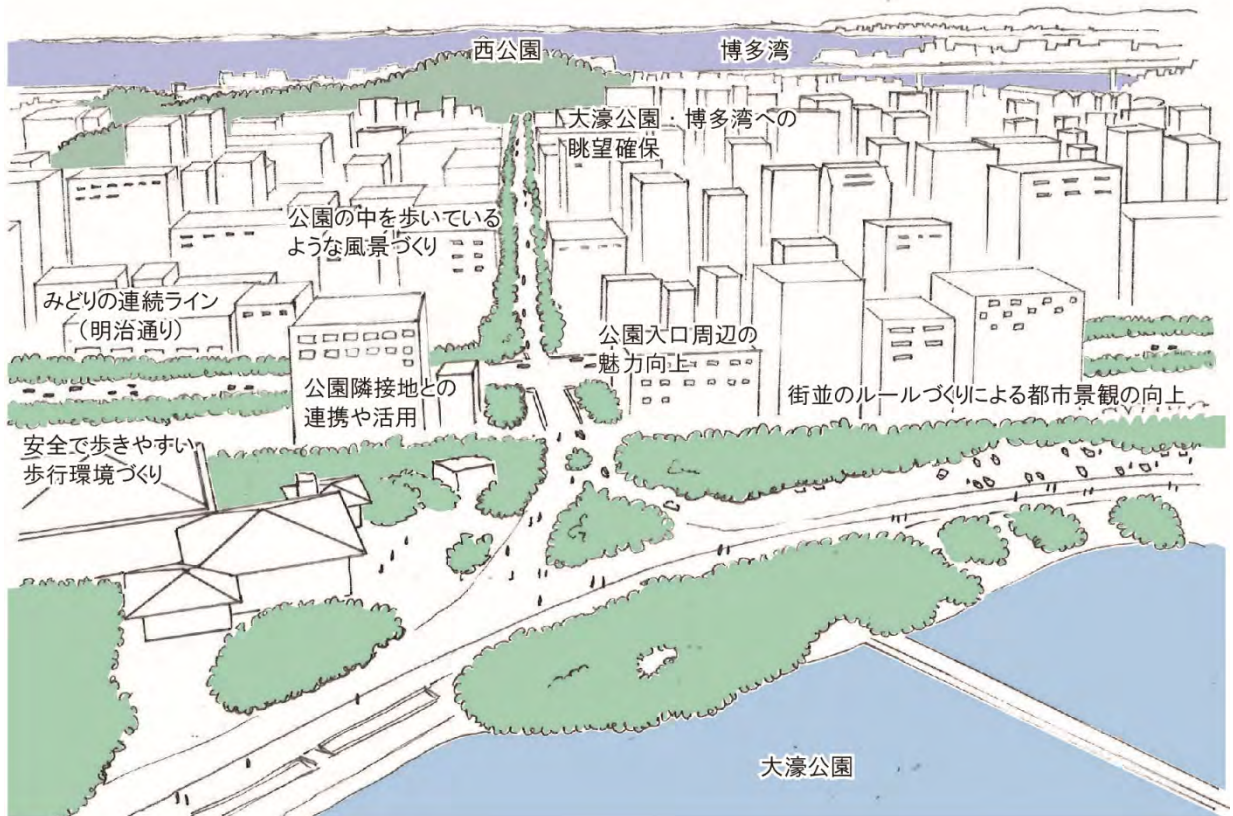
※福岡城跡保存整備基本構想より

図：周辺地域の整備方針図

エリア	整備の考え方
大濠公園・舞鶴公園 	大濠公園・舞鶴公園エリアを核として、「まちの公園」から「公園のまち」の雰囲気へと福岡のまちを導くことができるよう、公園隣接エリアなどの見本となる、歴史や芸術が感じられ水と緑が豊かで高質な空間づくりを推進していきます。
公園隣接エリア 	エリア内の公有地を活用し、公園の雰囲気や史跡の歴史的な雰囲気が公園外にまでにじみ出していくよう公園への見通しの確保や緑化等を推進するとともに、民有地と連携した公園入口部周辺の魅力向上を図ります。 また、大濠公園・舞鶴公園と一体となった緑化や、まちなみのルールづくりを推進するとともに、駐車場やアートギャラリー、スポーツ用品店、ロッカー・シャワーなど、民間施設との連携強化による魅力の向上を図ります。
西公園・南公園 	西公園・南公園は、大濠公園・舞鶴公園などと合わせて緑の腕（中央緑地帯）を形成する緑の拠点となっています。これらの緑の拠点の魅力向上を図るとともに、公園間を緑でつなぎ、公園の中を移動しているような景観づくりを推進します。 西公園では桜の再生など魅力的な緑地としての存在感を高めるとともに、博多湾沿いの貴重な視点場として、生物多様性にも配慮しながら、樹木の適切な密度管理により視界の確保を図ります。 南公園では老朽化が目立つ動物園を中心に平成18年度から20年計画でリニューアルを進めています。今後も動物や人にやさしい動植物園へのリニューアルを推進します。
緑の腕 （中央緑地帯） 	市街地の生活環境や生物の生息・生育環境の軸となる緑を引き続き保全しながら市民との共働により新たな緑地などを創造し、緑の豊かさが感じられる美しい都市の景観形成を図ります。
水辺エリア 	自然に恵まれた都市・福岡の大きな特徴である水辺エリアは、福岡らしい良好な水と緑の風景として、市民の休息・レクリエーション空間の創出を図ります。 また、海からの眺望を大切にするとともに、背後に広がる市街地や博多湾の自然環境と調和した港の景観形成を図ります。
核・拠点 	都心部の魅力に更なる磨きをかける核・拠点づくりを目指すとともに、核・拠点の機能を補完する周辺地区と連携することにより相乗効果を高めます。また、幹線道路沿いの立地を生かして、沿道建物の高度利用を誘導し「九州・アジア」「環境」「魅力」「安全安心」「共働」の視点から都心部の機能強化と魅力づくりを進めます。
回遊軸 	公共交通や自転車を快適に利用でき、歩行者が楽しく回遊できる、質の高い都心部の回遊ネットワークを創出し、美しい街並みや緑、歴史資源などを楽しみながら誰にでも安心でわかりやすい回遊空間の創出を図ります。
都市軸 	福岡の骨格となる交通ネットワークを受け持つ都市軸として、都市計画道路などの整備状況に応じた土地利用の誘導や、沿道の有効利用、連続性のある良好な街並みの形成等を推進します。

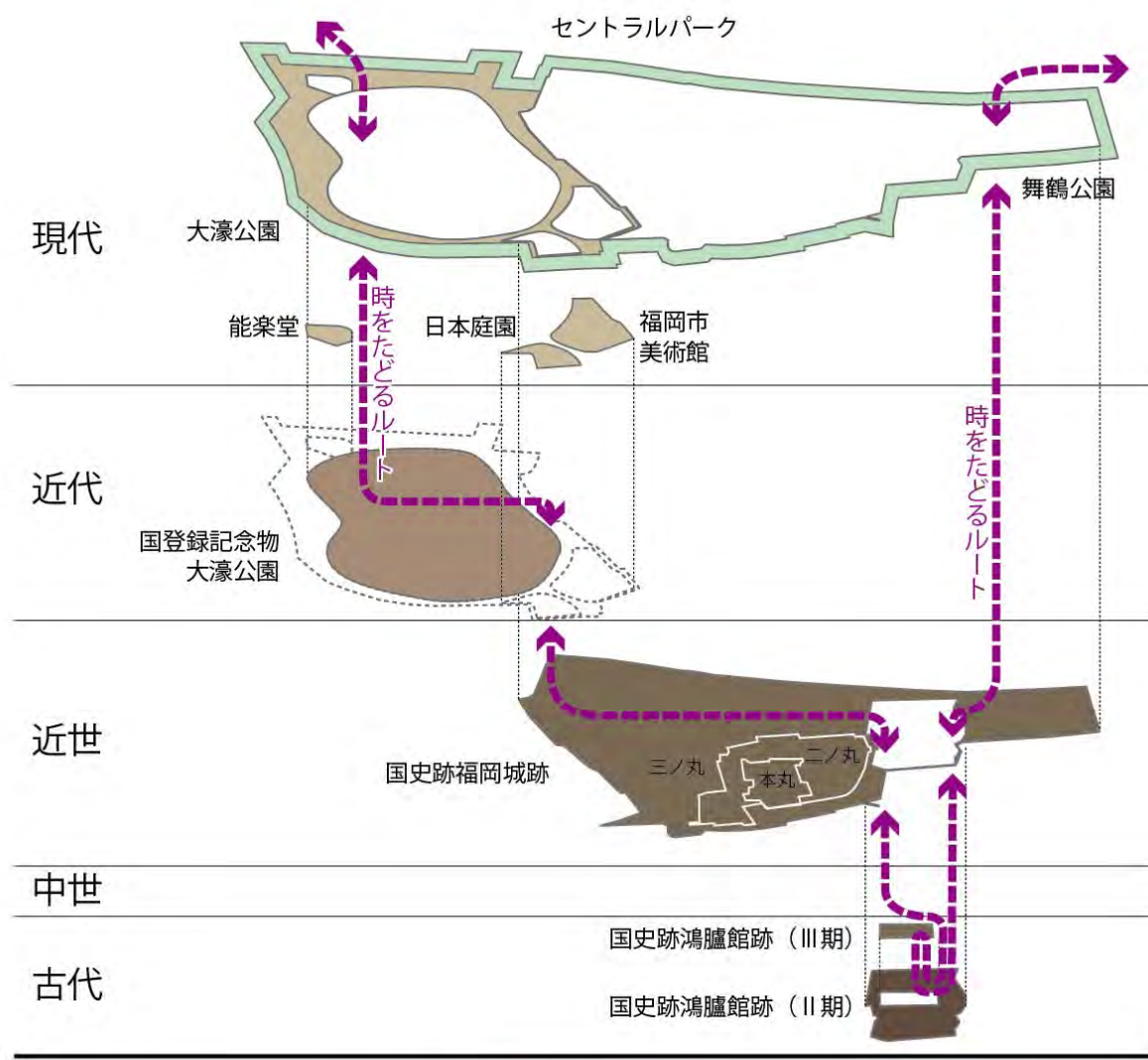
②展開イメージ

西公園や南公園などの緑の拠点や、天神や大名、六本松等の都心部の核・拠点間を緑でつなぎ回遊性を強化することで、大濠公園と舞鶴公園の水と緑豊かな雰囲気や、歴史と芸術文化の香りが公園の外にも広がりをもたせ、福岡の都市自体が公園の中にあるように感じられるよう、周辺地域における整備の展開イメージを整理します。



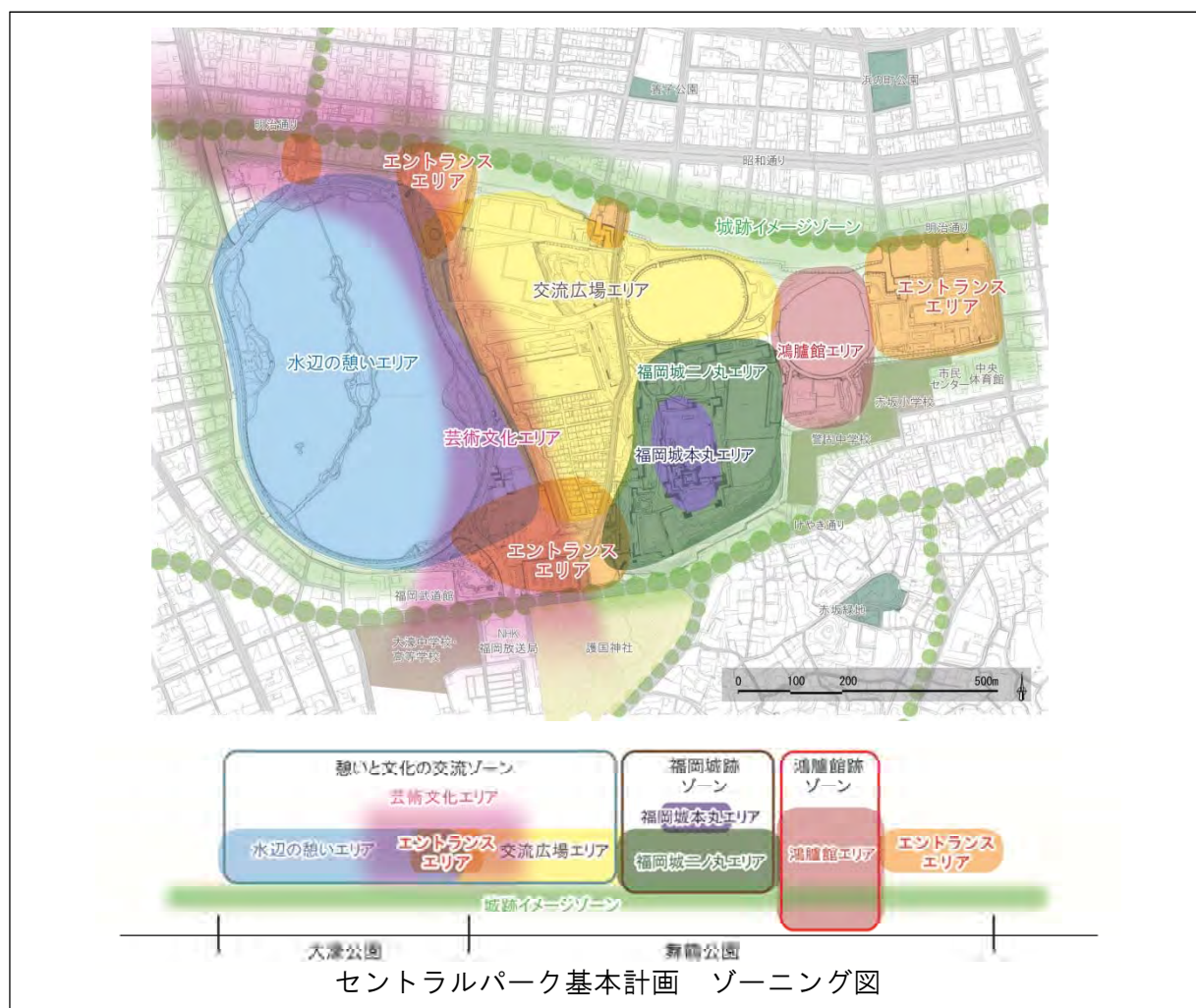
（２）歴史的特性からみた整備の方向性

両公園内に存在する各時代の歴史資源のわかりやすさや魅力の向上を図るため、「時をたどるルート」を設定し、来園者が古代から現代へと連なる福岡二千年の歴史をたどれるようにします。



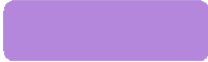
(3) ゾーニング

周辺地域から捉えた整備の方向性を踏まえ、場所ごとの特性に応じてセントラルパーク構想で示したゾーニングを細分化します。



各ゾーンやエリアの考え方は以下の通りとします。

ゾーン・エリア		整備の考え方
城跡イメージゾーン	憩いと文化の交流ゾーン	水辺の憩いエリア  大濠公園の水面とその周回園路を中心とした範囲を「水辺の憩いエリア」とします。 通行レーンの明確化やマナーアップを図ることで、都心での貴重な水辺を感じながら歩行者やジョギング利用者、自転車利用者、ペットの散歩など、様々な利用者がより快適で安心して利用できるようにします。休憩施設や水辺に親しみやすい場所を設け、水景を眺めながら子ども達が安全に安心して遊び、また、水辺の野鳥など自然との触れ合いを通じて、来園者の交流を促進します。
		芸術文化エリア  福岡市美術館や能楽堂、日本庭園などの芸術文化施設と、それらをつなぐ空間をまとめて「芸術文化エリア」とします。 福岡の芸術文化施設が連携し相乗効果を高めるための核となるエリアとして位置付けます。芸術文化の雰囲気が施設内のみとどまらず、公園全体やNHK文化放送局などの周辺施設をはじめ、都市全体にも広がりを見せるよう、芸術文化の活動を育む場づくりを行います。
		交流広場エリア  舞鶴中学校跡地や城内住宅などの非史跡施設の移転跡地と舞鶴公園西側広場を中心とした範囲を「交流広場エリア」とします。 全てのエリアに接し、既存の広場に移転跡地を加えた都心部最大の広場となり、イベントや様々な活動を通じて、来園者が憩い集う交流を育みます。各エリアの接点にあたる場所は優先的に見通しをよくし、大濠公園と舞鶴公園の物理的・視覚的な連続性をもたせることで、一体的な賑わいを育みます。 また、舞鶴公園のボタン・シャクヤク園やフジ棚、ショウブ園などの季節感を感じるみどりを積極的に活用します。
	鴻臚館跡ゾーン	鴻臚館エリア  鴻臚館跡の史跡指定範囲を「鴻臚館エリア」とします。 国史跡鴻臚館跡整備基本計画（策定中）との整合を図り、発掘調査、資料の収集に努めるとともに、古代の歴史文化の学習の場、迎賓の場として鴻臚館の時代に思いをはせることができる復元整備を行います。 施設の復元までの期間は芝生広場として利用し、段階的に明らかになっていく福岡の歴史の深さを、来園者と共有していきます。 また、継続的な保存管理や歴史的建造物の復元に向けた財源確保の仕組みを構築し、来園者とともに将来にわたって保存を図ります。

城跡イメージゾーン	福岡城跡ゾーン	福岡城本丸エリア 	福岡城本丸の範囲を「福岡城本丸エリア」とします。 国史跡福岡城跡整備基本計画と整合を図り、福岡城跡の最大の見所として、一義的に歴史的建造物などを保存するとともに、積極的な復元整備や石垣の保存・修景による城跡の雰囲気演出を図り、来園者が福岡城跡の歴史を感じ、学ぶことができる空間とします。 また、継続的な保存管理や歴史的建造物の復元に向けた財源確保の仕組みを構築し、来園者とともに将来にわたって保存を図ります。 将来的に本丸御殿が復元されるまでは、歴史的な雰囲気の中でサクラを楽しむことができる場としての活用を図ります。
		福岡城二ノ丸エリア 	福岡城二ノ丸の範囲を「福岡城二ノ丸エリア」とします。 国史跡福岡城跡整備基本計画との整合を図り、歴史的建造物や庭園などの復元整備、石垣の保存・修景に努め、城郭としての景観保全を重視します。 また、二ノ丸への入口部は公園の園路と適切に連続させるとともに、二ノ丸のエントランスとしての魅力向上を図り、来園者をエリア内に誘導するような雰囲気づくりを行います。
	城跡イメージゾーン	エントランスエリア 	明治通りと国体道路からの主要な入口とその周辺に加え、天神側からの玄関口となる福岡高等裁判所周辺を「エントランスエリア」とします。 外部からも公園の雰囲気が感じられ、公園の入り口として魅力的でわかりやすい空間を目指し、来園する観光客や県民・市民の期待感を向上させます。 また、来園者への案内機能や公園と地域の魅力を伝えるガイダンス機能などを備えた施設の導入を図り、両公園一体となった情報提供を行うことで、外国人観光客も含めた多様な来園者が、安心してわかりやすく利用できるようにします。 さらに、都心部に近い貴重なオープンスペースとして、災害時の避難場所や避難路などの防災機能の強化を図り、来園者や県民・市民に対する安心・安全を確保します。
		城跡イメージゾーン	福岡城跡は堀の部分も含めると両公園を合わせた範囲以上に広がっていたことから、両公園全体及び周辺を「城跡イメージゾーン」とします。 周辺からのアプローチやエントランスとしての機能を高めるとともに、都市景観上も重要である沿道や周辺から城跡のイメージを感じられる場所については、門や堀等の復元整備や土塁上の樹木の保全・密度管理など「お城」が感じられる空間づくりを行います。 また、鴻臚館跡と重なる範囲においては、福岡の歴史の重層性が感じられる空間づくりを行い、ゾーンが一体となって来園者に福岡というまちが持つ深い歴史の魅力を伝えるものとします。

(4) 主要な動線

緑や水辺などの自然や、歴史、芸術文化など、大濠公園・舞鶴公園の持つ様々な魅力をつなぎ、一体的な活用を促すための主要な動線を示します。



図：主要動線図

水辺の路

水景を楽しみながら大濠公園の池沿いを周回し、公園の魅力を感じながら福岡市美術館、能楽堂、日本庭園などの芸術文化施設を巡ることができます。

緑の路

福岡城跡の土塁上に分布する豊かな緑のボリュームを感じ、散策やジョギングなどを通じて、季節により表情が変化する様子を一年中楽しみながら舞鶴公園内を周回することができます。

歴史をつなぐ路

古代の史跡「鴻臚館跡」、近世の史跡「福岡城跡」、近代の記念物「大濠公園」をつなぎ、来園者が福岡の歴史の重層性を学び、福岡のまちの魅力を知ることができます。

お堀をめぐる路

大濠公園と舞鶴公園を大きくつなぎ、大濠公園の水面や舞鶴公園のお堀など福岡城のお堀をめぐることができます。両公園や隣接する街並みなどの沢山の魅力に触れることができ、公園内から周辺への回遊へとつなげます。

(5) 主要な施設

大濠公園・舞鶴公園における主要な施設の考え方は以下の通りとします。



図：主要施設図

①総合案内施設

(仮称)セントラルパーク総合案内施設(新設)

天神側からの玄関口となる高等裁判所跡地には、今後の発掘調査の結果を踏まえて遺構に影響の無い場所に、両公園全体を総合的に案内する施設を新たに設置します。

②芸術文化施設

福岡市美術館(改修)

芸術文化施設間の連携を強化するとともに、美術館内での芸術文化の雰囲気や屋外の公園空間に広げ、公園の雰囲気と美術館の雰囲気を有機的につなげることで、多くの県民・市民が、気軽に芸術文化に親しみ、楽しめる施設とします。

能楽堂(既設)

能楽堂で行われている能をはじめとする日本の伝統文化に関わる活動が、イベントなどを通じて公園空間に広がりを見せることで、来園者が気軽に日本の伝統文化の魅力を感じることができる、学びと交流が育まれる施設とします。

日本庭園(既設)

芸術文化施設間の連携を強化することで、来園者にとって入りやすい、親しみやすい環境の中で、**日本庭園の芸術性や文化性、茶道の心得などを体感し学ぶことができる施設**とします。

③文化財関連施設

鴻臚館跡遺構展示保存施設(改築)

既存の鴻臚館の原寸大模型や遺構の露出展示を活かしつつ、福岡の歴史の重層性を感じる施設として改築を検討します。ガイダンス機能に加えて便益機能を付加し、国内外からの来園者の様々なニーズへの対応を図り、誰もが親しめる学びの場となる施設とします。

武具櫓(復元)

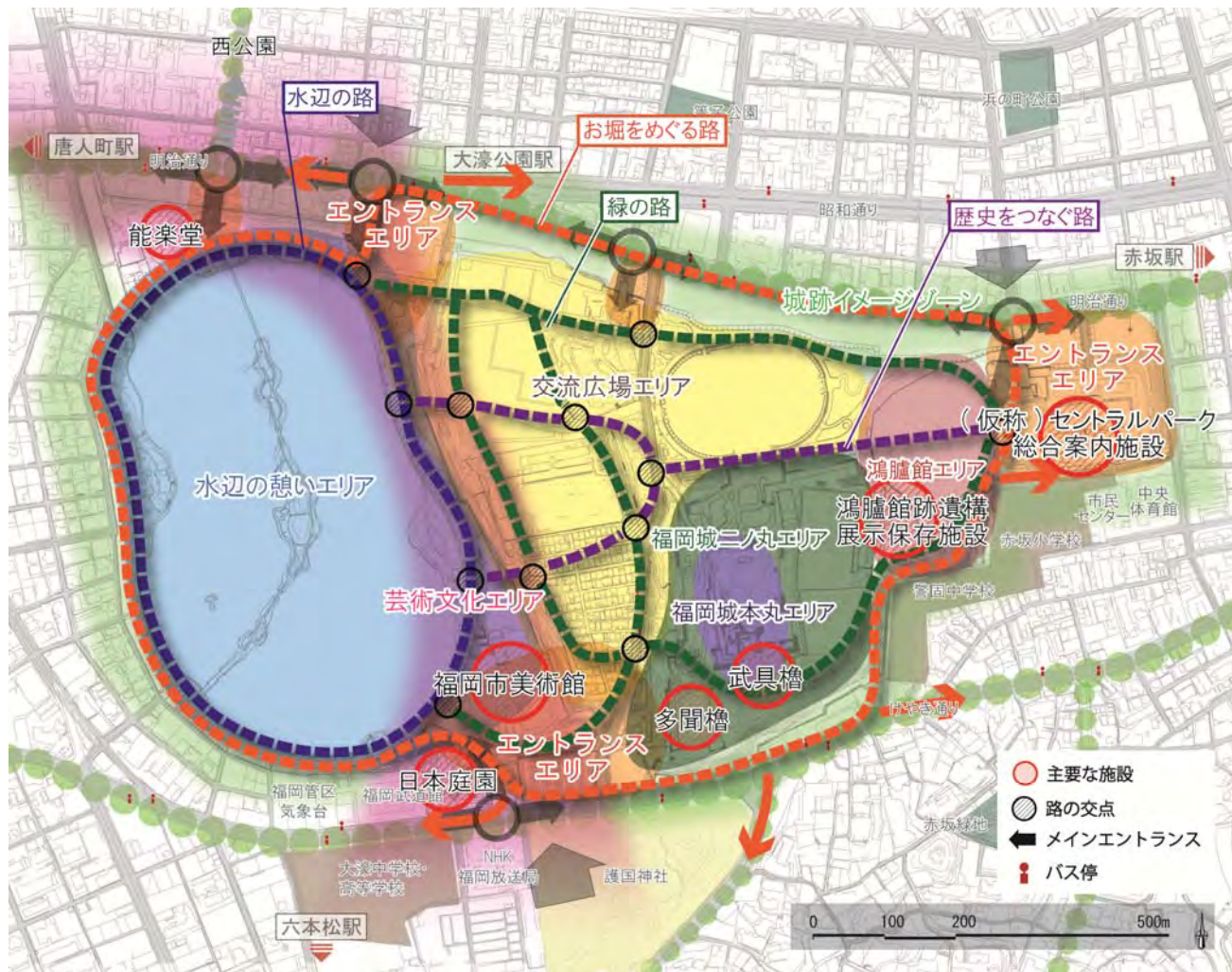
史跡の集客力を高める拠点施設として復元整備を行うとともに、福岡城跡のメインガイダンスとしての機能を付加することで、楽しみながら学べる場とします。

多聞櫓(修復)

構造上の課題や部材の劣化状況を把握したうえで、学術的な検討を踏まえながら適切な方法による保存修復を行います。また、修復に合わせてガイダンス機能や便益機能の付加について検討します。

（６）両公園の整備方針

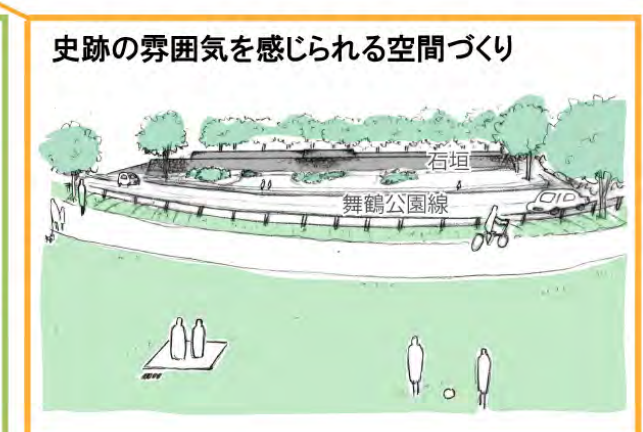
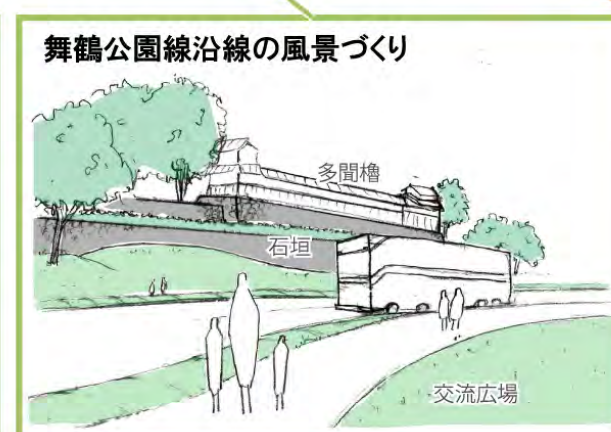
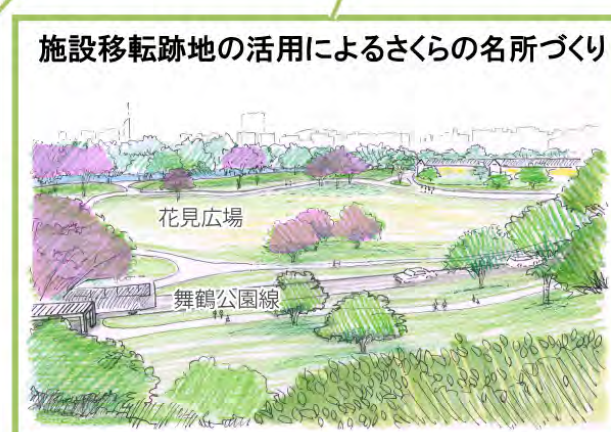
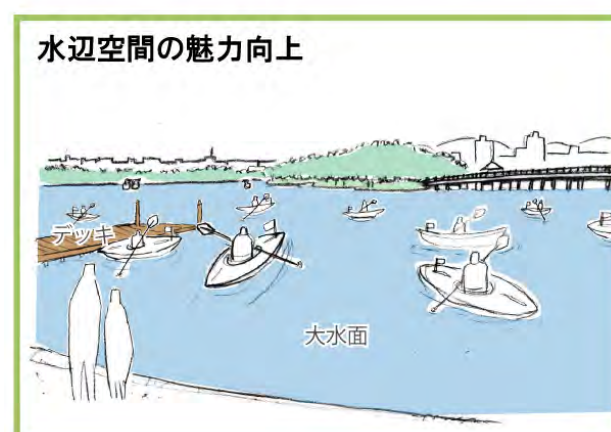
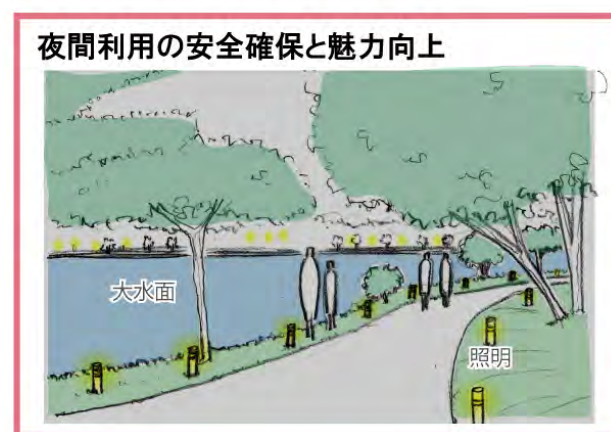
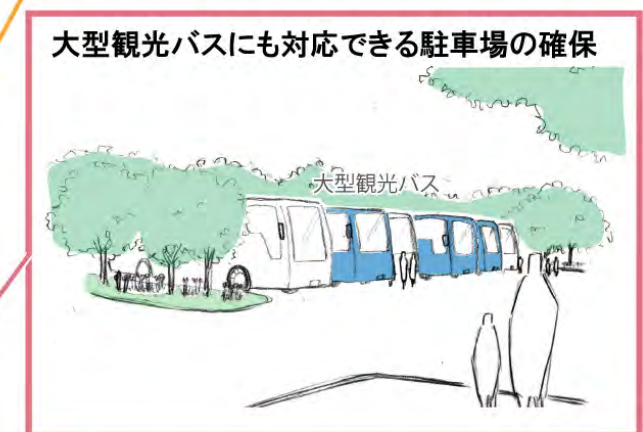
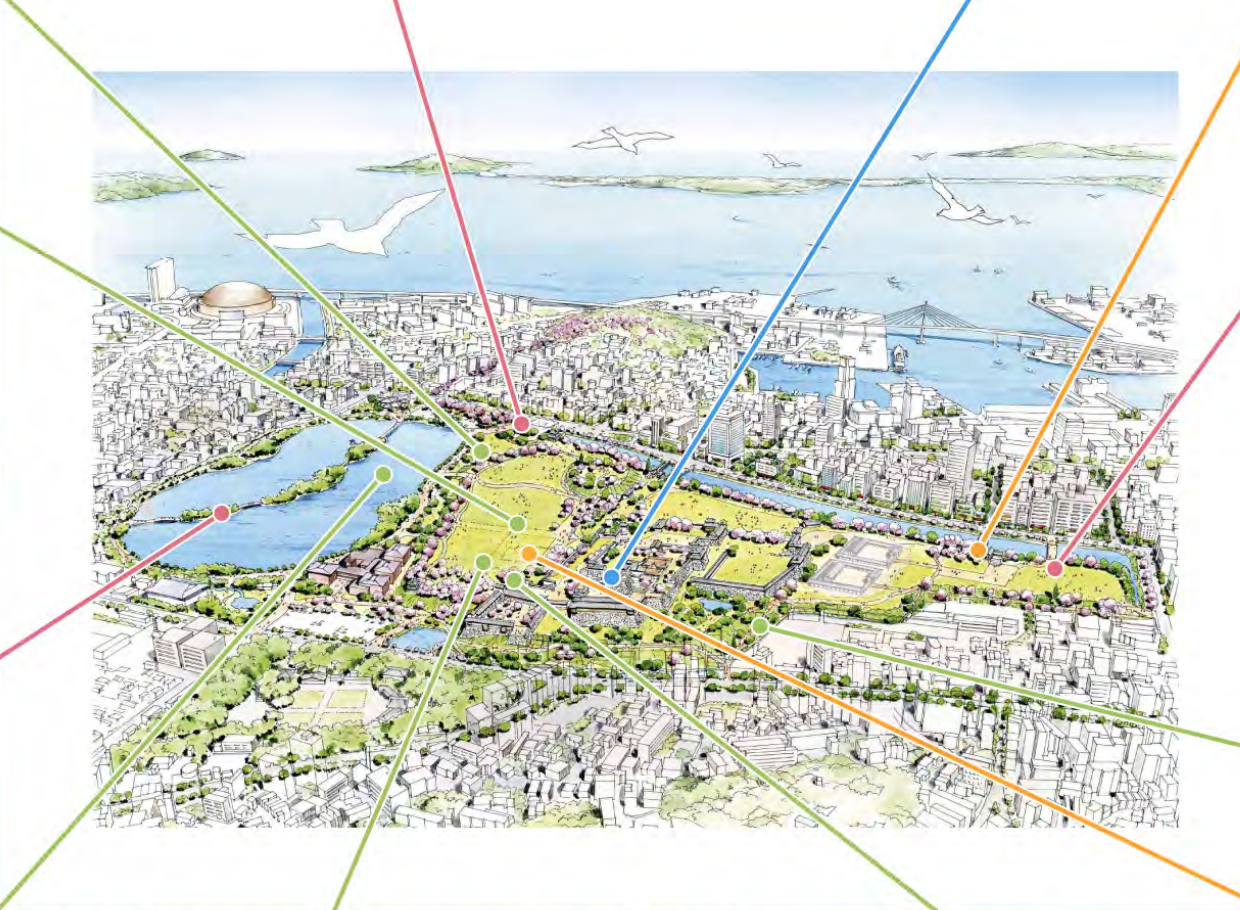
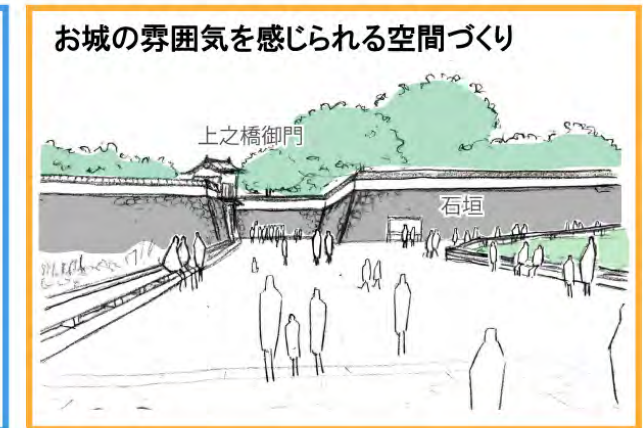
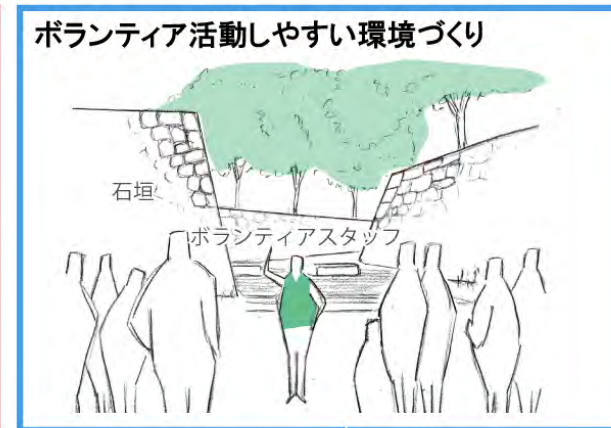
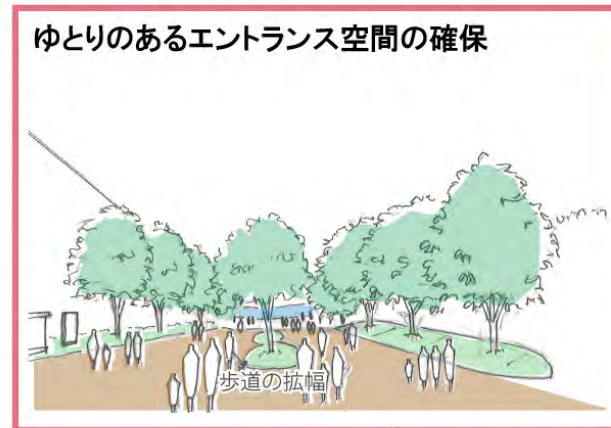
ゾーニング、主要な動線、主要な施設を重ね合わせたものを整備方針図とし、大濠公園・舞鶴公園における今後の整備の骨格として位置付けます。



図：整備方針図

②展開イメージ

整備方針を踏まえ、公園内の様々な場所で、利活用イメージモデルで示した活用が展開されるよう、両公園の整備の展開イメージを整理します。



2. 動線計画

「水辺の路」、「緑の路」、「歴史をつなぐ路」、「**お堀をめぐる路**」、という4つの路をもとに、利用者の目的に応じて、主要な施設や見所などをつなぐ動線を設定します。

(1) 基本的な考え方

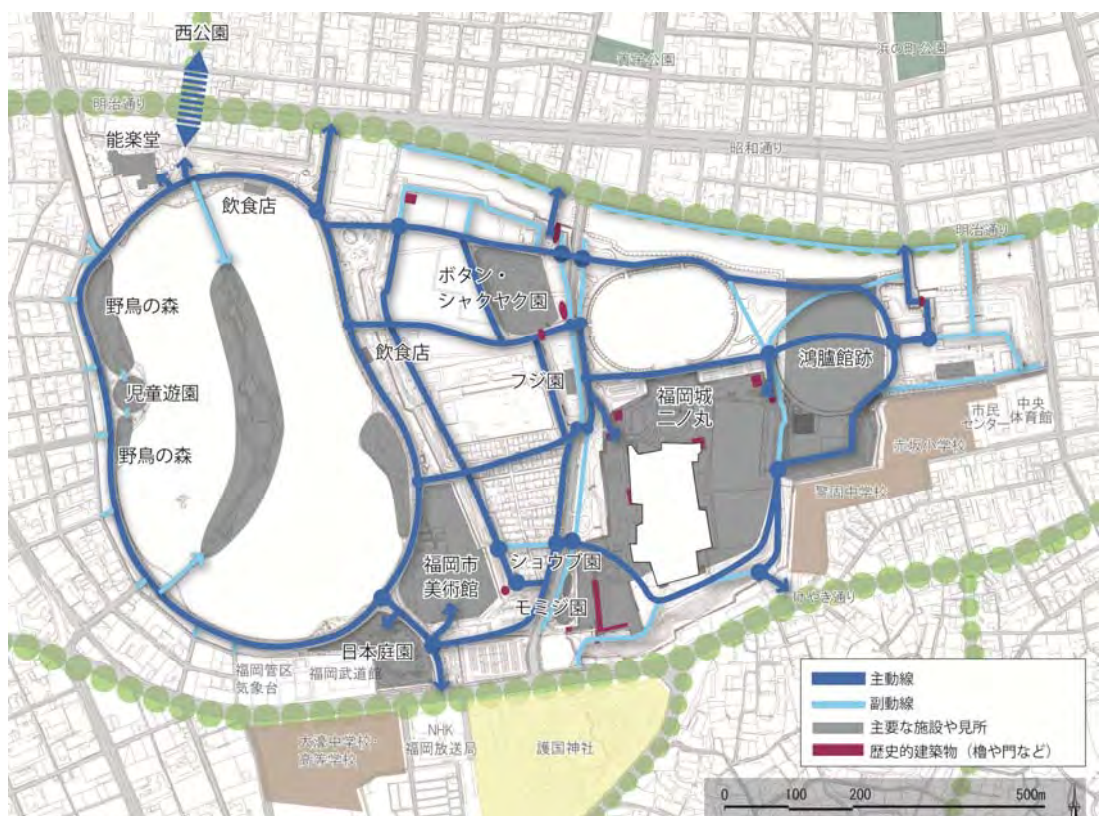
動線計画における基本的な考え方を以下のとおり設定します。

- 公園周辺の道路とのつながりや、人の動きに配慮した動線を設定するとともに、アクセスしやすく周辺からの公園の見え方に配慮したエントランス空間を創出します。
- 大濠公園の周回園路でなされている利用が舞鶴公園を含めた全体に広がるよう、大濠公園と舞鶴公園をつなぐ動線の強化を図ります。
- 舞鶴公園内を周回できる動線を確保します。
- 災害時の利用にも効果的なエントランスと動線を確保します。
- 来園者がスムーズに舞鶴公園線を横断できる動線を検討します。
- ジョギングや散策、自転車、車いす、管理車両など、移動手段に応じた適切な動線を設定します。

(2) 動線

基本的な考え方をもとに、両公園における主動線及び副動線を設定します。

- ① **主動線**：動線計画の骨格となる4つの路、及びその路につながるメインエントランスからの動線を主動線として位置付けます。また、4つの路から主要な施設や見所へとつながる動線についても主動線とします。
- ② **副動線**：主動線を補完する動線として位置付けます。両公園内の様々な施設や見所に通じるよう、主動線から枝状に配置します。



図：動線計画図

(3) 幅員構成

主動線及び副動線の幅員構成は、以下の考え方に基づくものとします。

- ①**主動線**：大濠公園の周回園路の幅員 9 m（内周園路：ジョギング用 4.5m、外周園路：自転車用 4.5m）での活動が舞鶴公園に広がり、一体的な活用が育まれるよう両公園内の**主動線は、8～10mの幅員を基本とします。**

主動線の中でも、エントランス部などの**広場機能を付加する箇所は広場と合わせて 15m以上の幅員を確保します。**

なお、地形や文化財、舞鶴公園線等の条件の中で**幅員を確保できない箇所については 5～6m程度の幅員を確保します。**



＜両公園内の幅員 8 ～10m程度の園路＞



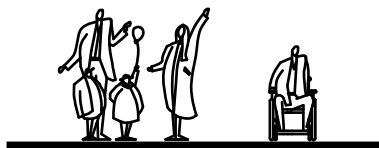
大濠公園の周回園路(内周園路と外周園路)



舞鶴公園の松ノ木坂御門

- ②**副動線**：副動線は、来園者と管理用トラックが安全にすれ違うことができるよう **5～6m程度の幅員を基本とします。**

なお、管理用トラックの通行が少ない箇所や、地形や文化財、舞鶴公園線等の条件の中で**幅員を確保できない箇所については 2～3m程度の幅員とします。**



＜両公園内の幅員 5 ～6 m程度の園路＞



大濠公園のさつき橋



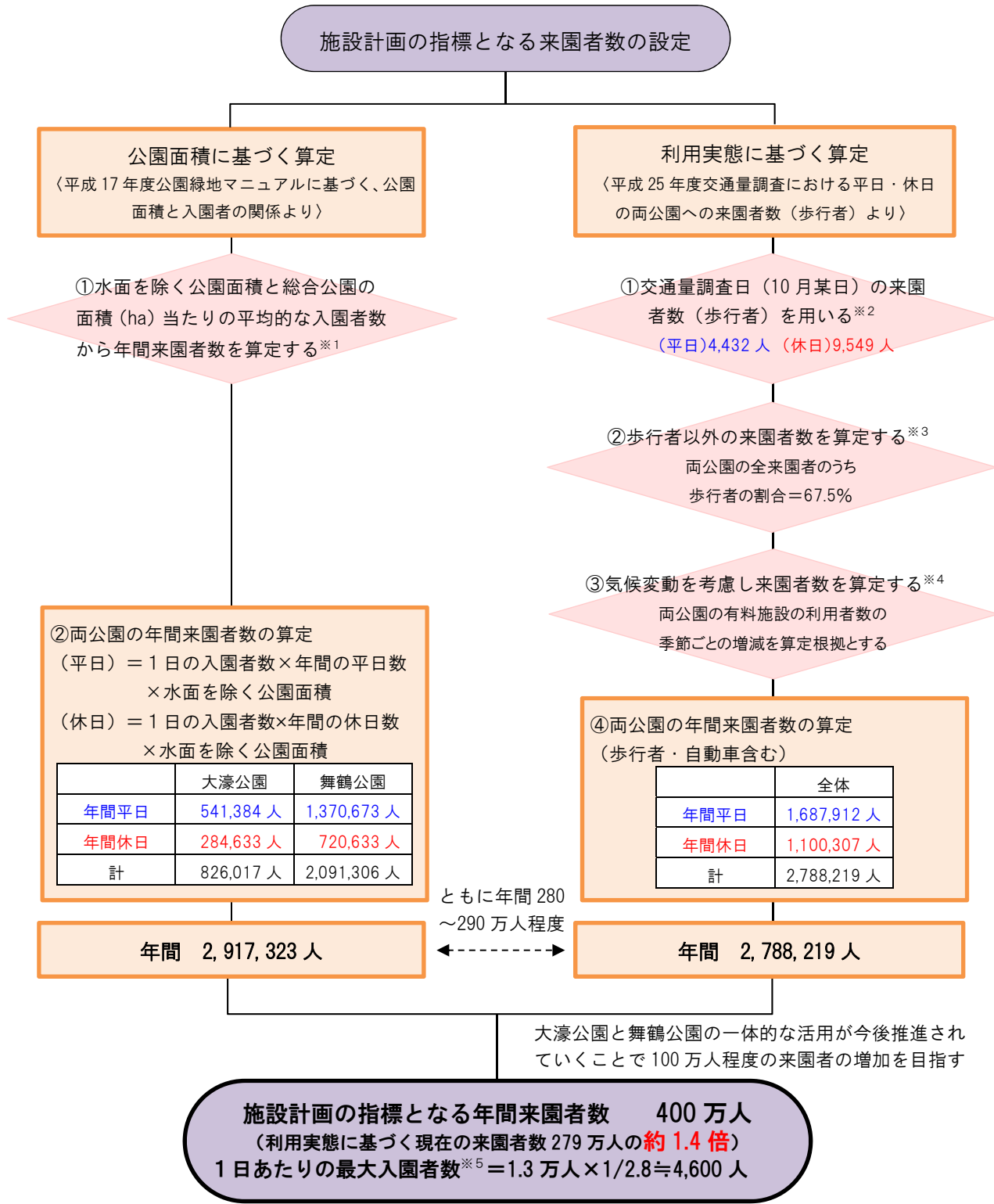
舞鶴公園の鴻臚館跡展示館横

3. 施設計画

公園内の諸施設の整備について計画します。なお、施設の種類ごとに両公園全体での整備の計画を行い、そのあとに特に重点的な整備が求められる内容については主要施設計画で整理します。

3-1. 来園者数の設定

公園利用者の規模やニーズに応じた公園施設を計画するにあたって、公園面積に基づく計算と、利用実態に基づく計算の二通りで来園者数の算定を行ったうえで、来園者数を設定します。



【補足】

1. 公園面積に基づく算定について

【※1. 公園面積及び平均的な入園者数の設定について】

- ・総合公園の面積 (ha) 当たりの平均的な入園者数は、平日 119.9 人/ha・日、休日 158.2 人/ha・日とされています。
- ・水面を除く公園面積は以下の通り。

- ・舞鶴公園：(全面積) - (水面の面積) = 43.8ha
- ・大濠公園：(全面積) - (水面の面積) = 17.3ha

2. 利用実態に基づく算定について

【※2. 交通量調査日の来園者数の算出について】

- ・大濠公園・舞鶴公園の来園者数の算出方法については以下の表の通り。

表：一日当たりの来園者数（歩行者）

	大濠公園 (A)	舞鶴公園 (B)	両公園間の移 動者数(C)	全体 (D)	備考
平日	3,187 人	1,942 人	697 人	4,432 人	(D) = (A) + (B) - (C)
休日	8,194 人	3,386 人	2,831 人	9,549 人	

【※3. 歩行者以外の来園者数及び※4. 気候変動による来園者数の算出について】

都市公園利用実態調査における舞鶴公園利用者の交通手段の割合から、以下の条件を設定し、徒歩以外の利用者を算出します。また、平成 27 年の大濠公園の有料施設の利用者数をもとに季節変動を考慮し、年間来園者数を算出します。

●算定条件

①歩行者以外の利用者の算出方法

- ・大濠公園も舞鶴公園の交通手段の割合と同様とみなす
- ・徒歩、バイク、公共交通機関は歩行者とし、それ以外を自動車利用とする
- ・平成 19 年と平成 26 年の平均値を採用する
- ・1 年間の平日を 261 日、休日を 104 日とみなす。

$$\text{歩行者の割合} = \text{徒歩} + \text{バイク} + \text{公共交通機関} = \{(41+1+17)\% + (48+2+26)\%\} / 2 = 67.5\%$$

②季節変動による利用者数の算出方法

- ・両公園の有料施設の利用者数の季節ごとの増減と、両公園全体の来園者の増減が同様とみなす。
- ・下記の計算式より年間休日及び平日の来園者数を算定する。

$$\left(\begin{array}{c} \text{年間休日（又は平日）の} \\ \text{両公園全体の来園者数} \end{array} \right) : \left(\begin{array}{c} \text{交通調査日（10月某日）の} \\ \text{両公園全体の来園者数} \end{array} \right) = \left(\begin{array}{c} \text{年間休日（又は平日）の} \\ \text{施設利用者数} \end{array} \right) : \left(\begin{array}{c} \text{交通調査日（10月某日）の} \\ \text{施設利用者数} \end{array} \right)$$

※誤差を少なくするため、
10月の休日（又は平日）のうち
4日間の平均を算出

3. 施設計画の指標とする来園者数の設定について

【※6. 1日あたりの最大入園者数について】

1日あたりの最大入園者数については、休日の平均来園者数に回転率（1/2.8）を乗じて算出します。なお、休日の平均入園者数は、年間の来園者数 400 万人をもとに、公園緑地マニュアルでの平日・休日の来園者の割合を考慮し、1.3 万人/日とします。

＜参考：来園者数の他事例＞

公園名	公園面積	年間来園者数
熊本城	52.3ha	(有料区域) 178 万人
金沢城公園	24.3ha	238 万人
大阪城	105.6ha	(有料区域) 234 万人
首里城	17.8ha	267 万人
海の中道海浜公園	293.5ha	221 万人
国営昭和記念公園	162.5ha	350 万人
NYセントラルパーク	341ha	2,500 万人

※原則、各公園の管理部門より回答のあった平成 27 年度の来園者数を記載。国営昭和記念公園と NY セントラルパークについては、インターネットの情報をもとに作成。

3-2. 便益施設計画

(1) 基本的な考え方

便益施設計画における基本的な考え方を以下のとおり設定します。

- 施設計画の指標となる年間来園者数や、現在の利用状況をもとに、適切な容量を確保します。
- 新たに施設を設ける場合には、遺構の保存に影響の無い位置に配置することを原則とし、来園者の利用動線を踏まえて、安全で利用しやすい位置を選定します。
- 施設の更新や新設の際には、復元された建物や歴史的建造物と間違えられないよう外観に配慮します。形状・素材・色彩等のデザインの統一を図るとともに、シンプルで素材感を活かしたデザインとします。

(2) サービス施設

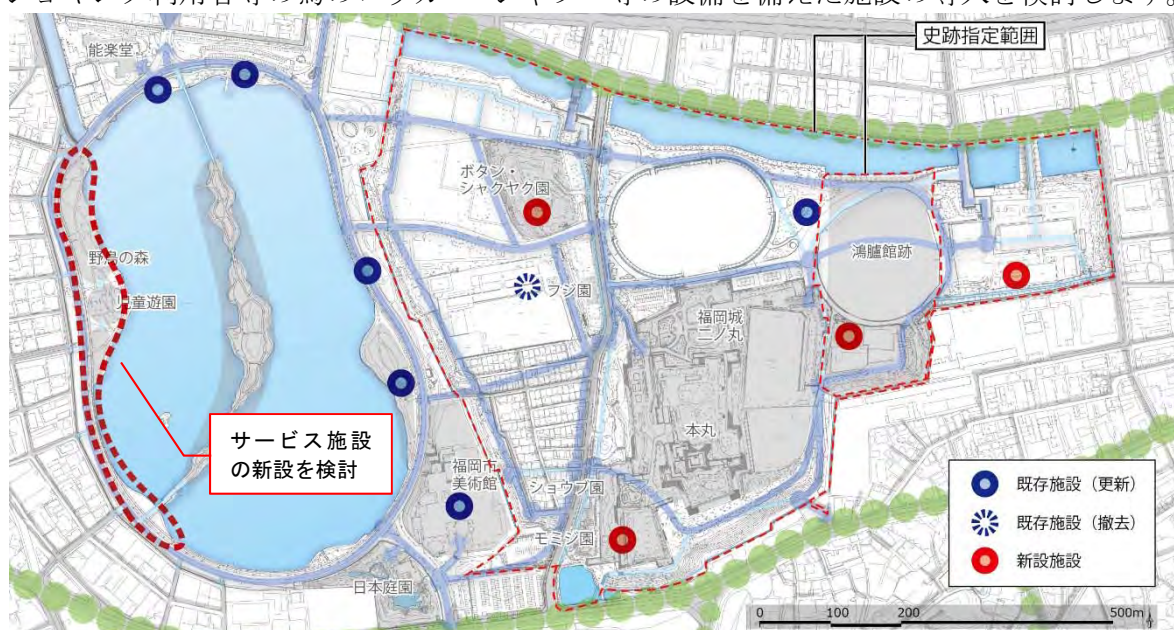
大濠公園では現在、福岡市美術館や日本庭園などの施設も含めて、5箇所に飲食・物販などのサービス施設が配置されています。一方で舞鶴公園では、福岡城むかし探訪館内に1箇所飲食施設が配置されています。今後、両公園の一体的な活用を図るため、それぞれの公園の特徴を活かしながらサービス施設等の配置や整備水準の検討を行います。

○既存施設

- ・既存施設の福岡城むかし探訪館内飲食施設、売店、ボートハウス、スターバックスコーヒー、宝亭、福岡市美術館内飲食施設については、契約や建物の更新時期に合わせて、利用者のニーズを踏まえながら施設の拡張や追加を検討します。

○新設施設

- ・高等裁判所跡に設置する（仮称）セントラルパーク総合案内施設へのサービス機能の導入を検討します。
- ・鴻臚館跡展示館では、展示機能の充実と合わせてサービス機能の追加を検討します。
- ・南ノ丸郭では、保存・修復整備の時期を捉えてサービス機能の追加を検討します。
- ・ボタン・シャクヤク園において、花々や広場での景色を楽しみながら休憩することができるような施設の配置を検討します。
- ・大濠公園の西側では、水面や野鳥の森の豊かな緑等の環境を活かしたサービス施設の導入を検討します。
- ・ジョギング利用者等の為のロッカー・シャワー等の設備を備えた施設の導入を検討します。



図：サービス施設図

(3) トイレ

大濠公園では、周回園路沿いに点在して5箇所のトイレが設置されており、舞鶴公園では、公園全体に分散して10箇所のトイレが設置されています。ここでは来園者がより利用しやすいトイレのあり方について整理します。

○整備状況

「都市公園技術解説書」をもとに、最大入園者数と公園便所利用率の関係から推計するとトイレの必要穴数は84穴となります。現在両公園内には屋外だけでも124穴が整備されているため、十分な穴数が確保できている状況となっています。また、舞鶴公園に設置されている既存屋外トイレのほとんどは和式となっています。

トイレの穴数（2015年現況調査）

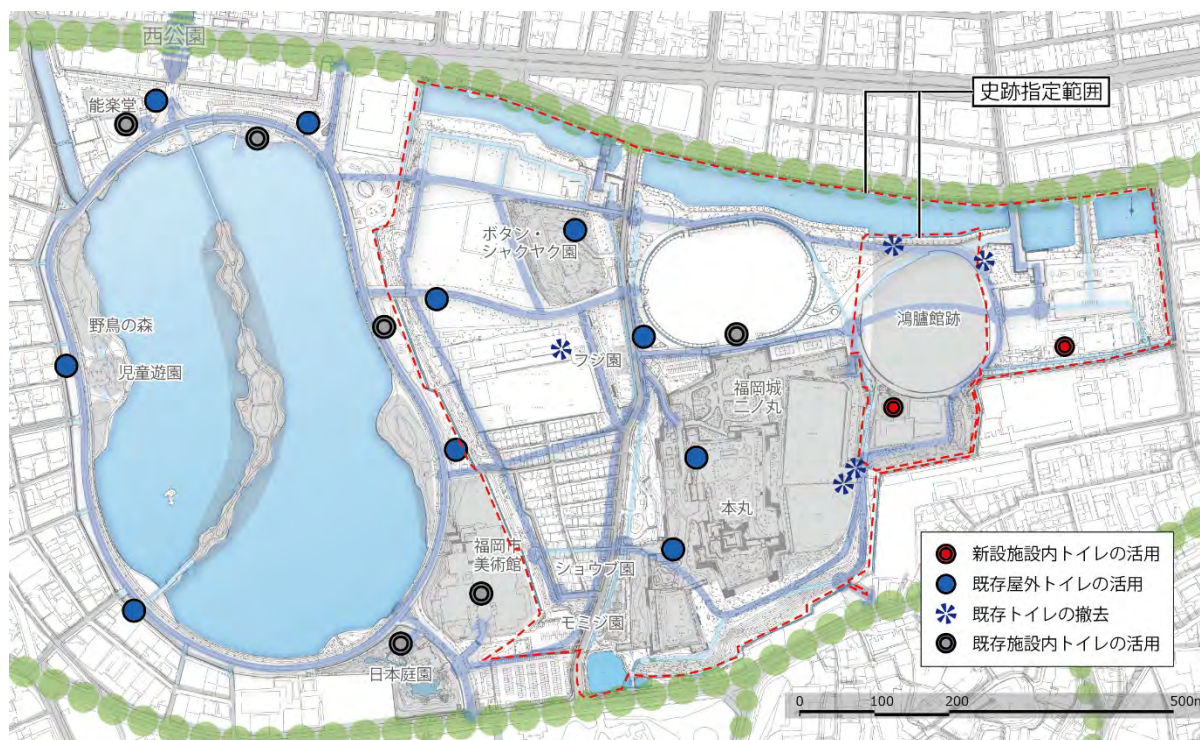
	男性		女性	多目的	合計
	大	小	大		
大濠公園	7	13	15	5	40
舞鶴公園	13	39	28	4	84
合計	20	52	43	9	124

○配置方針

- ・既存のトイレを活用していくことを基本に、老朽化しているものについては和式トイレから優先して、適切なタイミングで更新や撤去を行っていきます。
- ・新たにサービス施設を設ける箇所では、周辺の既存トイレの機能をサービス施設内に統合することを検討します。
- ・福岡高等裁判所や舞鶴中学校跡地、城内住宅などの非史跡施設移転跡地では、新たにトイレを設置する必要があるかを見定めたうえで、適切な箇所に配置します。

○整備水準

- ・海外からの来訪者や体の不自由な方々など、誰もが利用しやすいユニバーサルデザインに配慮し、和式トイレの洋式化を図るなど、現代のニーズにあったトイレの水準とします。
- ・トイレの設置・改装に際しては、温水洗浄便座など将来的な整備水準の変化への対応を容易にするため、予め電気配線用の管路を備えることとします。
- ・福岡を代表する観光地の一つとして、長期的な視点で歴史的な景観や公園景観への調和に配慮したデザインへと統一を図っていくとともに、誰もがいつでも気持ちよく利用できる環境づくりを推進します。



図：トイレ位置図

〈参考:トイレ穴数算定の根拠〉

・必要穴数の算定

トイレの必要穴数は最大入園者数に公園便所利用率（30～80 人あたりに 1 便器、ここでは平均値として 55 人あたりに 1 便器）を乗じて算定します。

$$\text{必要穴数} \cong \text{最大入園者数}(4,600 \text{ 人}) \times \text{公園便所利用率}(1/55) \cong 84 \text{ 穴}$$

(4) 駐車場

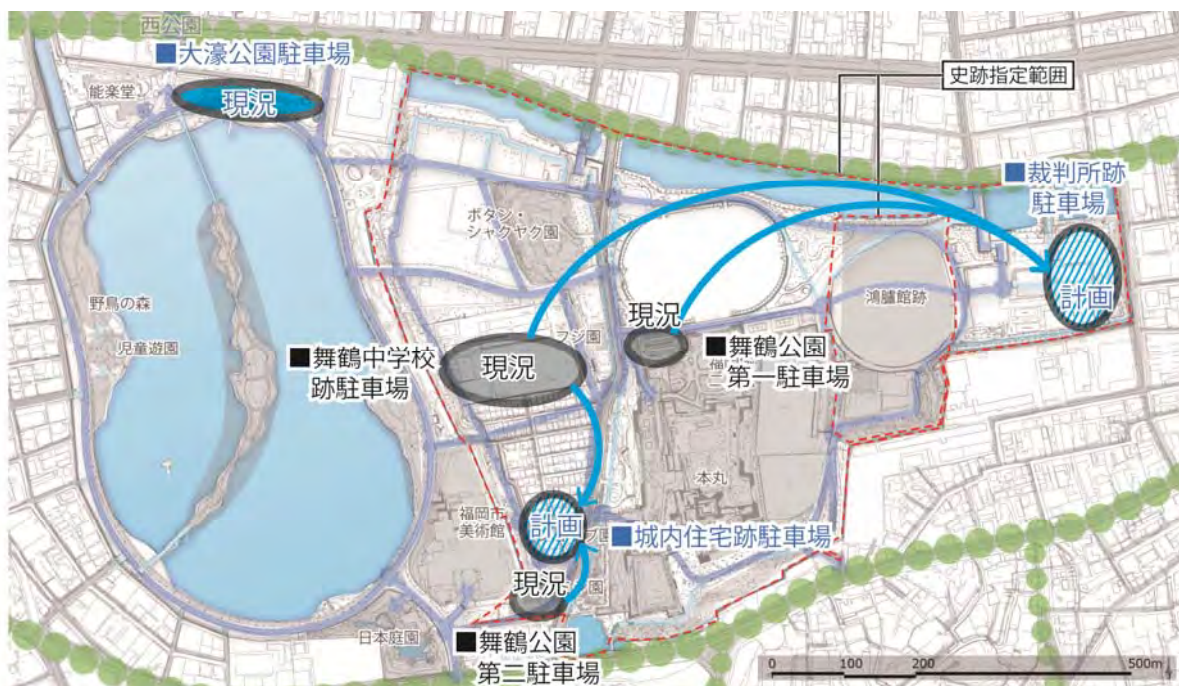
現在大濠公園と舞鶴公園には、舞鶴中学校跡地も含めて一般乗用車 507 台、大型バス 17 台を収容する駐車場が設置されています。

○配置方針

駐車場は、二段階の整備を経て、将来的に史跡区域外に確保することを目標とします。

第一段階としては、車両がアクセスしやすく、歩行者動線と交錯しにくい両公園の外周部に暫定配置します。東側からの来園者への対応として福岡高等裁判所跡に暫定駐車場を配置し、舞鶴公園第二駐車場は公園南側入口部の魅力づくりや、回遊性確保等の観点から城内住宅跡に駐車場機能を移転します。なお、将来的には、駐車場を史跡区域外で確保することとします。

また、駐車場は一般乗用車やバスの適切な駐車台数の確保を図るとともに、車いす利用者やタクシー利用者の使いやすさにも配慮します。



図：駐車場整備の流れ

○駐車台数の設定

・一般乗用車

平成 27 年 8 月に舞鶴中学校跡地の旧グラウンド部分が暫定的に駐車場として活用され始めたことで、駐車場の不足は一時的に解消されおり、今後も現況の駐車台数を維持していく必要があります。

・車いす利用者用駐車場(一般乗用車の内数)

$$\begin{aligned}\text{必要台数} &= \text{当該駐車台数} \times (1/100) + 2 \\ &= 500 \text{ 台} \times (1/100) + 2 \\ &\div 7 \text{ 台}\end{aligned}$$

「都市公園の移動円滑化整備ガイドライン」より

・バスの駐車台数の算定

現在、大型バス 17 台を収容する駐車場が設置されていますが、近年アジアから福岡への観光客が増加していることで、大型の観光バスが増加している現状を踏まえ、バスの駐車台数は現況の 17 台の倍程度確保します。

(現況 17 台) の 2 倍程度→約 30 台

○駐車台数の整理

舞鶴中学校跡地を暫定的に活用している駐車場の台数も含めた現況の駐車台数と比べ、同じ程度の駐車台数を確保します。

	現況の駐車台数	計画駐車台数
一般乗用車	507 台	500 台※
大型バス	17 台	30 台

※算定された一般乗用車の駐車台数 500 台の内 7 台は車いす利用者用

○各駐車場における駐車台数

配置方針と駐車台数の算定結果にもとづき、各駐車場における駐車台数を以下の通り設定します。また、駐車マスの配置に際しては、利用状況に応じて、一般乗用車用の駐車スペースの一部を大型バス用に振り向けることが可能となるような工夫を行います。

	大濠公園 駐車場	裁判所跡 駐車場	城内住宅跡 駐車場	合計
一般乗用車	100 台	260 台	140 台	500 台
大型バス	2 台	18 台	10 台	30 台

〈参考：駐車場の他事例〉

公園名	開園面積	駐車台数	
		一般乗用車	大型バス
大阪城公園	105.6ha	269 台	94 台
金沢城公園	24.3ha	554 台	66 台
名城公園	76.3ha	596 台	28 台※3
熊本城公園	52.3ha	564 台	33 台
福岡市動植物園	20.5ha	220 台	0 台※3
海の中道海浜公園	293.5ha	3360 台	61 台

※1：各ホームページで案内されている駐車場情報をもとに作成しています。

(公園区域・史跡指定地外も含む)

※2：優先駐車場含む

※3：通常時は一般乗用車用として使用している駐車場は、バスの駐車台数として含めない

(5) 駐輪場

現在、両公園に設置されている駐輪場は大濠公園に 7 箇所、舞鶴公園に 1 箇所、計 186 台の駐輪スペースを有しています。しかしながら、実際には駐輪場でない場所への駐輪が目立ちます。また、料金はすべて無料ですが、地下鉄駅周辺の駐輪場は有料のため、地下鉄利用者など公園利用以外による駐輪も多くなっています。

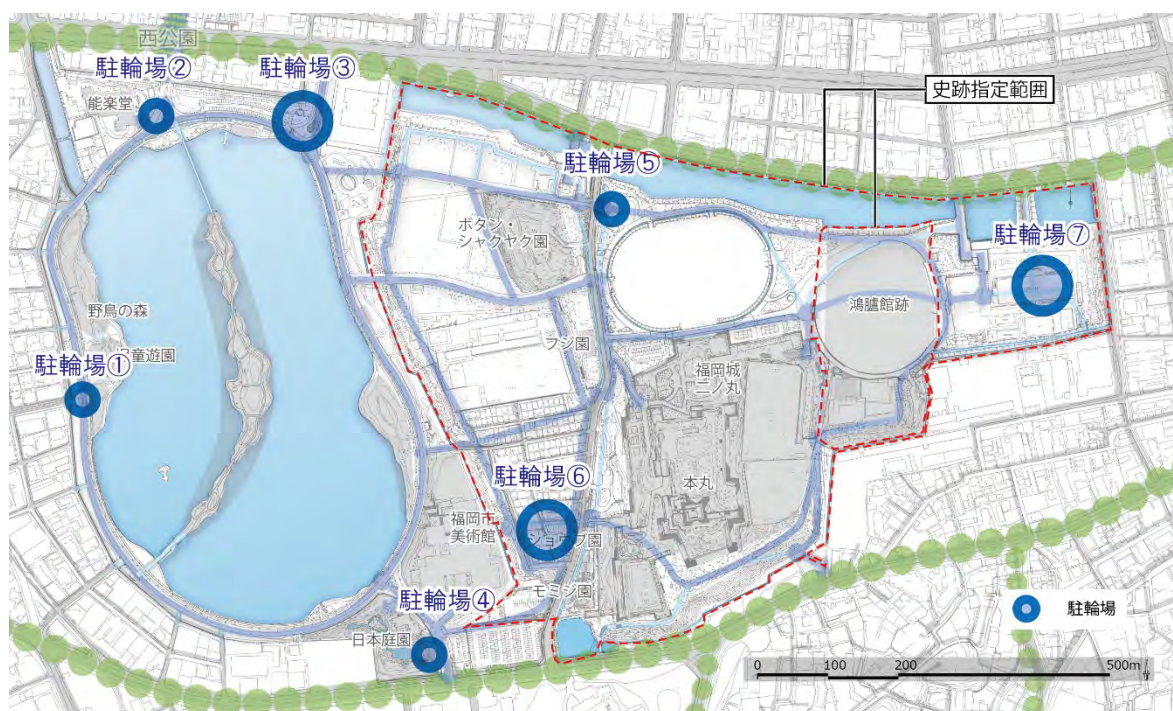
○配置方針

・車両動線との分離

来園者が駐輪するにあたってできるだけ車両動線と交錯しない位置に駐輪場を配置します。

・駐輪台数の分配

駐輪場の配置は、駐車場やエントランス周辺に設置することとし、平成 25 年度に実施された交通量調査をもとに各出入口部の来園者数の比重を考慮して設定します。なお、将来的には、駐輪場を史跡区域外で確保することとします。



図：駐輪場計画図

○駐輪台数の算定

自転車の駐輪台数は最大入園者数に自転車利用率を乗じて算出します。自転車利用率は、平成 19 年度都市公園利用実態調査（国土交通省）の総合公園における値を用います。

$$\begin{aligned}
 \text{駐輪台数} &= \text{最大入園者数} \times \text{自転車利用率} \\
 &= 4,600 \text{ 人} \times 12.8\% \\
 &\div 589 \text{ 台}
 \end{aligned}$$

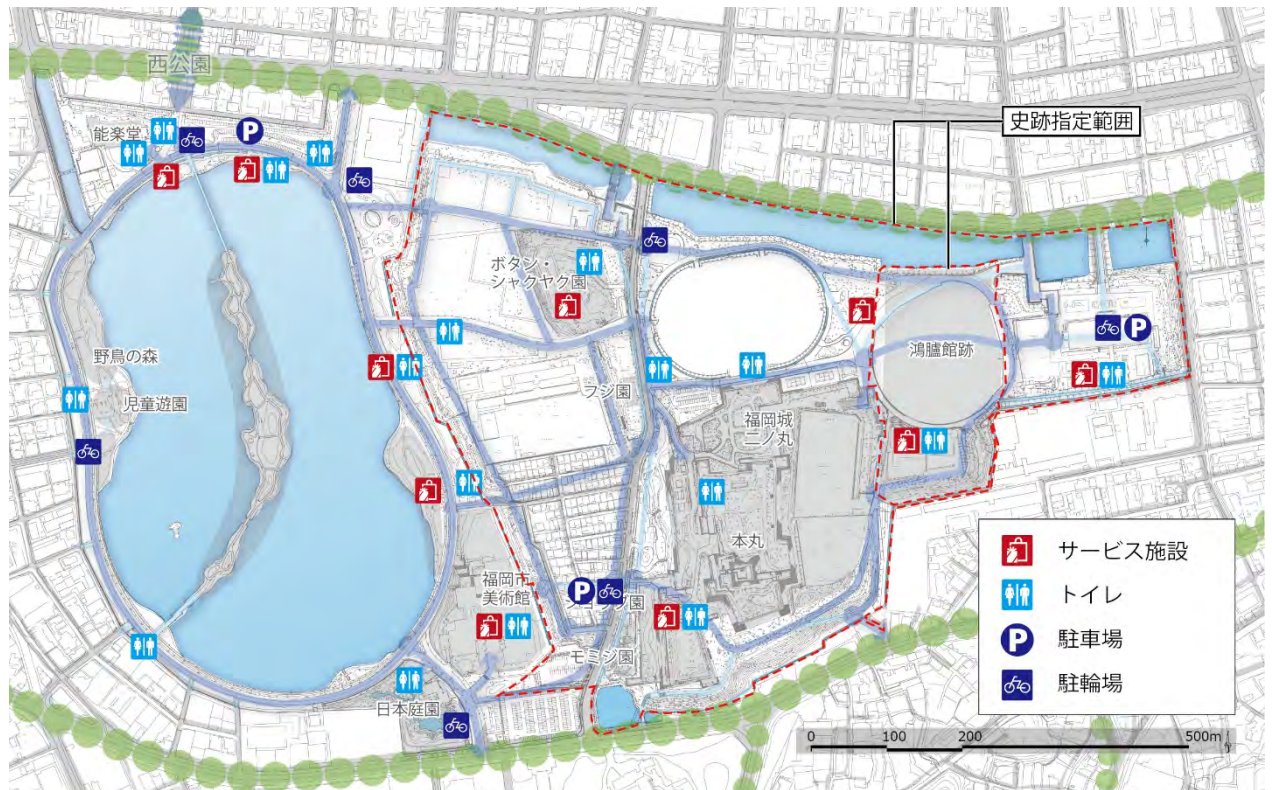
算定結果を踏まえ、現在の 186 台の駐輪台数から約 400 台程度の駐輪スペースの拡幅を図り、配置方針にもとづいて下記の通り駐輪台数を分配します。

番号	駐輪場①	駐輪場②	駐輪場③	駐輪場④	駐輪場⑤	駐輪場⑥	駐輪場⑦
台数	30 台	60 台	120 台	90 台	60 台	120 台	120 台

合計 600 台

(6) 便益施設計画のまとめ

サービス施設、トイレ、駐車場、駐輪場を重ねあわせたものを便益施設計画図とします。



図：便益施設計画図

3-3. サイン計画

大濠公園・舞鶴公園内には様々なサインが設置されています。これらは、設置主体や設置時期、設置目的等によってデザインが異なっており、景観の阻害要因の一つとなっています。また、設置された時期が古いものは掲示されている情報が古く、現況に即していないものもあります。

(1) 基本的な考え方

サイン計画における基本的な考え方を以下のとおり設定します。

- 両公園内に設置されているサインについてデザインと掲載情報の統一等を推進するため、両公園共通のサインマニュアルの作成を推進します。
- サインをはじめとする情報提供施設は、海外からの来訪者にも利用しやすいよう多言語表記化を推進します。

(2) サインの機能と配置の考え方の整理

案内サイン

配置箇所：大濠公園・舞鶴公園とその周辺の見どころ等の位置関係について説明するサインとして主要な出入口部や主要な拠点施設など、人が集まりやすく目につきやすい位置に設置します。表示方向と地図方向を合致させることは当然ながら、手持ちの観光地図と照合しやすいように、極力、北を上にした配置となることも考慮して位置を選定します。

表示内容：公園内や周辺地域の地図

主要な出入口や施設等の位置及び名称

AEDの位置

公園内を中心とした見どころの紹介

公園内の散策ルートとその距離や時間

公園外の芸術文化施設や、歴史資源への広域的な案内 など

誘導サイン

配置箇所：来園者が目的地に行きやすいよう入口部や動線への分岐点に設置します。

表示内容：目的となる施設や見どころの名称

方向、距離 など

名称サイン

配置箇所：誘導サインに沿って回遊してきた来訪者に、目的地である見所の位置と名前を示すサインとして、見所となる場所の周辺に設置します。

表示内容：目的となる施設や見所の名称

など

解説サイン

配置箇所：解説サインは、公園内の歴史的な遺構や資源等の見所の付近に設置します。

表示内容：来園者が遺構などの姿や使われ方、往時の情景等をイメージできる写真や絵図

解説する対象の概要や歴史 など

注意サイン

配置箇所：公園を安全で快適に利用するにあたって注意が必要な箇所を選び、可能な限り集約して設置します。既存の注意サインは必要最低限のモノを除いて出来るだけ撤去、集約化を図ります。

表示内容：公園利用上の注意点

史跡指定地内での活動における注意点 など

(3)出入口部における情報提供の強化

来園者を出迎える出入口部や主要な拠点では、多言語に対応したデジタルサイネージや、パンフレット置き場などを設けることで情報提供を強化し、初めて訪れた人でも快適に公園内や周辺部を散策できるようにします。

(4)サインデザイン

○意匠

素材や形状については、公園としての風景や文化財としての風景を阻害しないよう薄型でシンプルな汎用性の高いデザインとすることを前提に両公園共通のサインマニュアルを作成します。各サインの大きさについては掲示したい情報量と見やすさに配慮し、適宜設定することとします。

○デザインの統一

デザインの統一感が確保されていないサインや掲示されている情報が古いサインについては状況に応じて適切なタイミングで撤去し、素材や形状に統一感があるものへと更新します。

○サインの集約化

サインが近接して設置されている箇所は出来る限り集約化を図り、景観への影響を最小限にとどめるよう配慮します。

○史跡のサイン

公園内の文化財に関するサインについては、利用者が一目見て鴻臚館跡に関するサインであることや福岡城跡に関するサインであることがわかるよう、形状や素材は共通のものを採用しつつ、色使いやロゴなどによって区別を行います。

○名称表示の活用

S N S 等での発信時の利便性も考慮し、ビューポイントにはカメラ台と併せて名称サインを設置することで両公園の知名度の向上も図ります。

(5)表示内容の統一方針

サインの表示面は基本的なレイアウトや地図、写真、フォント、ロゴ、文言などの使い方の統一を図ります。また、海外からの来園者に対応して、英語の併記を原則とし、案内サインや解説サインなどは日本語、英語、中国語、韓国語の4ヶ国語表記を基本とします。

なお、サインの設置箇所や内容に応じて必要性の高い情報のみ4ヶ国語表記を検討するほか、日本語と中国語でほぼ同様の漢字を充てる表示については中国語を省略するなど、表示が繁雑とならないよう留意します。

3-4. 防災計画

福岡の都心部で大規模な地震が発生した場合、天神地区は特に揺れやすい地域となっており、数多くの人々が大濠公園・舞鶴公園に避難することが想定されます。

(1) 基本的な考え方

防災計画における基本的な考え方を以下のとおり設定します。

- 地域防災計画において広域避難場所に指定されている公園として、大濠公園と舞鶴公園で連携した防災拠点づくりを推進します。
- 平常時の公園・史跡として担う役割と、災害時に担う避難場所としての役割の両立を図ります。
- 災害時に救援活動の拠点となる中央体育館や赤坂小学校、警固中学校等の周辺施設の連携の強化を図ります。

(2) 避難スペースの確保と安全性の向上

大濠公園と舞鶴公園は、避難圏域人口 164,863 人に対して有効避難面積が現在 1.81 m²/人となっているため、目標値 2 m²/人を確保できるよう、非史跡施設の移転跡地を中心に避難スペースとして利用できる広場の拡充を図ります。

平成 17 年に発生した福岡県西方沖地震では、福岡城跡の石垣等が影響を受け、平成 28 年に発生した熊本地震では熊本城の石垣や櫓が崩壊しました。

福岡城本丸・二ノ丸をはじめとする石垣や歴史的建造物が集中している箇所は、石垣等が崩壊するおそれがあることから、大規模な地震が発生した際には立ち入りを制限することとします。



図：熊本地震による熊本城の石垣の崩壊状況



図：公園内の主要な避難スペースと出入口

(3) 出入口及び園路の安全性の向上

災害時には天神地区のある東側からの避難者が集中することが考えられる一方で、東側から舞鶴公園に入ることができる出入口は1箇所しかなく幅員も狭い状況です。土塁の保護の観点から短期的に幅員を拡幅することが難しいことから、出入りのしやすさや、歩きやすさの向上を図るとともに、長期的な視点で周辺の公有地を活用した出入口部の拡幅を図ります。

また、公園内の主要な動線は災害時の大型車両の通行を考慮した幅員・構造とし、副動線については出来る限り緊急車両の通行を考慮した幅員・構造とします。

園路の配置については、石垣や歴史的建造物の崩壊等に配慮し、適切な離隔を確保して配置することとします。

(4) 施設

避難者の一時避難生活の環境向上を図る為、飲料水や生活用水、エネルギーなどの確保にあたって以下の設備等の導入を検討します。

導入を検討する設備		
・ 耐震性貯水槽	・ 非常用井戸	・ 水施設（池・水流等）
・ 非常用便所	・ 非常用放送設備	・ 非常用通信設備
・ 非常用電源設備	・ 非常用照明設備	

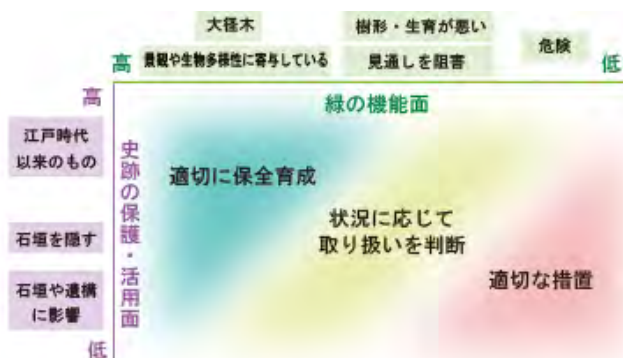
(5) 周辺施設との連携

災害時の地域拠点としては中央体育館や赤坂小学校、警固中学校等が機能することから、公物資や人材、情報伝達などの連携を育む仕組みづくりを行います。

3-5. 植栽修景計画

(1) 基本的な考え方

両公園の既存樹木の活用と適切な密度管理をはじめとする植栽の修景計画を行うにあたって、公園、史跡、生物多様性という三つの観点から基本的な考え方を整理します。



公園

○憩いの場としての緑の演出

来園者が季節ごとに様々な木々や花々と触れ合うことができ、木陰で憩いたくなるような緑の演出を実践していきます。



○安全性の確保

来園者の歩行を妨げている樹木や見通しを遮っている樹木など、来園者の安全な公園利用を妨げている樹木は、剪定、伐採、移植など状況に応じて適切な対応を図ります。



○既存樹木の更新と回復

サクラの名所として来園者に親しまれている舞鶴公園では、サクラの見所づくりを推進するとともに、老木や密植などにより樹勢が悪い樹木については専門家の判断を踏まえた上で更新や回復の措置を図ります。



○見通しの確保

両公園の一体的活用の促進に向けた公園間の見通しの確保や、公園の魅力を公園外に発信するための、公園外から公園内に向けての見通しの確保等を図ります。



○みどりとのふれあいの場の創出

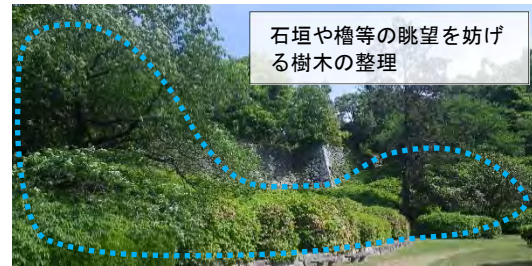
来園者に親しまれ、愛着のある公園となるよう、エントランス部や公園利用の骨格となる園路の周辺部には来園者が植え付けや管理に参加することができる花壇を設けるなど、みどりと触れ合うことができる場を創出します。



史跡

○見所づくり

見所となる箇所を選択し、当該箇所が最も魅力的に見えるよう周辺の整備の進捗状況に合わせた樹木整理を行います。



○遺構の保存に影響を与えている樹木の整理

根茎自体が石垣の内部に入り込み、石垣自体を支えていると考えられるものを除き、遺構の保存に対して影響を与えている樹木の整理を行います。



○史跡地内の外来種樹木の整理

鴻臚館跡や福岡城跡の史跡地内で新たに植栽する場合には、往時の植栽を参考に樹種を選定します。また、既存の外来種については樹木の整理を行います。



○希少樹木などの保護

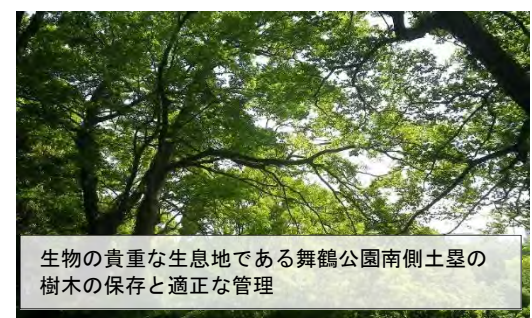
両公園内の希少な樹木や巨木・古木などの保護を図ります。



生物多様性

○生物の生息環境の保全

大濠公園・舞鶴公園のみどりは、福岡城跡の土塁とその周辺部を中心に、都心部における生物の貴重な生息場所となっているため、その生息環境の保全を図ります。



(2) 植栽の修景の方向性

場所の特性に応じた植栽のゾーニングを行い、ゾーンごとの植栽の修景の方向性を整理します。



図：植栽計画図

植栽ゾーン	植栽の方向性
①中之島ゾーン	・水辺を見ながらゆっくりできる空間となるよう木陰を配置する ・夜間利用に配慮し、安全な歩行ができるよう、適切な密度管理を行う
②野鳥の森ゾーン	・野鳥が訪れやすい環境の維持・向上を図る
③外周緑地ゾーン	・住宅地とのバッファゾーンとしての機能を残しつつ、公園への見通しを確保するため、樹木の成長に合わせ伐採や剪定等の管理を行う
④芝生広場ゾーン	・広場の広がりを感じないよう、利用者に木陰を提供する樹木を広場の外縁部を中心に配置する ・石垣への見通しの妨げになる樹木の整理を行う ・石垣への見通し配慮したうえで、住宅跡地を部分的に活用して新たなサクラの名所づくりを行う
⑤御高屋敷ゾーン	・御高屋敷から芝生広場や石垣を眺めたり、芝生広場や舞鶴公園線側からも様子がうかがえるよう、斜面の樹木整理を行う ・季節を感じられるボタンやシャクヤクなどの保全に努める ・舞鶴公園線に隣接する東側の箇所については、樹木が繁茂しており、薄暗く、利用しにくい状況となっていることから舞鶴公園のエントランス空間として樹木整理を行う

⑥お堀ゾーン	・明治通りから土塁の上端部ができるだけ連続して見えるよう樹木整理を行う。 ・季節を感じられるサクラやハス、スイレンなどの保全に努める ・石垣への見通しの妨げになる樹木の整理を行う
⑦舞鶴公園線ゾーン	・公園や史跡の雰囲気と調和した樹木の整備を行う。配置する樹木は道路沿いの街路樹のように同じ樹種を等間隔で列植するのではなく、バス停付近や歩道沿いの休憩所付近には木陰を確保し、石垣への見通しを確保したい箇所には植栽をしないなど、場所の特性に応じて密度を調整する ・福岡城跡ゾーンに隣接する現在のツツジ園は芝生広場ゾーンの利用者や、舞鶴公園線を通行する人々から石垣が見えやすいよう樹木整理を行う
⑧福岡城跡ゾーン	・石垣や櫓への見通しや遺構の保存に影響している樹木は伐採や剪定などの適切な管理を行う ・既存の外来種の伐採を進めるとともに、今後新たに樹木を配置する場合は、元々福岡城跡に植えられていたと考えられる在来種を選択する。 ・季節を感じられるサクラやウメ、ショウブなどは、遺構の保存や復元に影響のない範囲で保全に努める
⑨鴻臚館跡ゾーン	・鴻臚館では元々植栽があまりなかったと考えられていることに加え、地下遺構に対しても植栽が影響を与えることが懸念されるため、機能的に最低限必要な植栽のみ配置する
⑩土塁ゾーン	・両公園の一体的な活用や土塁の視認性向上に向けて、樹木の密度が高い場所は生態系への影響に配慮したうえで樹木整理を行い、見通しの確保を図る ・遺構の保存に影響が出る樹木等は伐採や移植などの樹木整理を行う ・希少生物の生息環境に配慮した植物管理を行う ・遺構の保存や利用者の安全性に影響の無い古木や巨木については保全に努めることを基本とする

3-6. 設備計画

公園の利用にあたって必要となる設備の内容について、防災や史跡の保存、景観の向上等の視点を踏まえ、以下のとおり整理します。

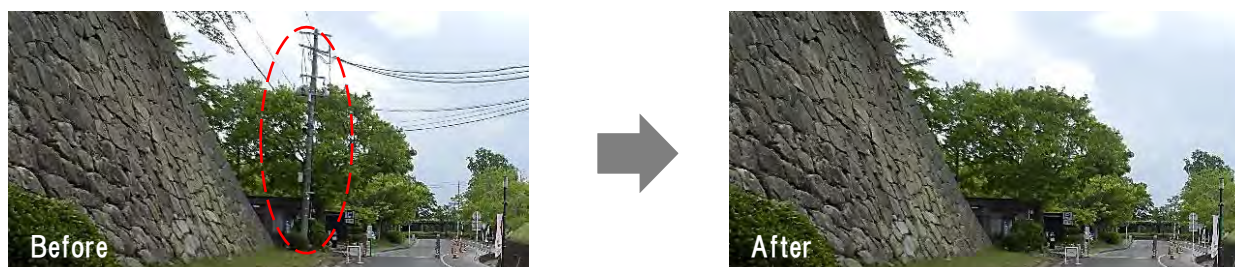
(1) 基本的な考え方

設備計画における基本的な考え方を以下のとおり設定します。

- 史跡地内に新たに設備を設ける場合や既存設備の更新を図る際には、遺構に影響を与えないことを前提とします。
- 配線・配管類は公園や史跡の景観との調和に配慮して埋設・再配置を検討します。
- 照明は夜間の安全確保と景観の演出の二つの視点で配置を検討するとともにデザインの統一を図ります。シンプルで素材感を活かしたデザインとします。

(2) 電線類の地中化

舞鶴公園の電線の地中化を行い、景観を阻害する電柱と電線を撤去します。史跡地内のため、整備にあたっては事前に調査を行い、遺構の保存に十分留意することとします。



図：電線の地中下イメージ

(3) 夜間の安全性確保

園路沿いや広場に照明施設を設置し、夜間でも安心して歩ける明るさを確保します。照明は、園路の歩行や公園・施設の出入口の確認、各種サインの確認、駐車場を出入りする車と歩行者の相互確認などと、用途によって適切な照度及び照明タイプを選ぶこととします。

整備にあたっては、公園の明かりが近隣の住宅街にとってまぶしくないように配慮します。

(4) 夜間の演出

水辺や緑、史跡を夜間でも視認できるように、公園の雰囲気と調和し、夜の景観を演出する照明施設を設置します。照明は石垣や水際の樹木、水面を照らす明かりに加え、歩行者の足元を照らす明かりなど、効果的な照度及び照明タイプを選ぶこととします。また、照明器具のデザインを統一し、昼間の景観を阻害しないように留意します。鳥類など夜間の休息を阻害しないように配慮し、水際や樹木を照明で演出する場合は、範囲を限定することとします。

(5) イベント利用への対応

既存の広場を含め、舞鶴中学校跡地など新たに整備する広場は、様々な集客イベントの開催場所となることが想定されます。そのため、一時的に行われる大規模イベント等に対応できる設備の充実が必要となります。

給水・排水設備については、必要に応じて仮設便所を設置し、そのための給水及び排水系統を事前に確保します。また、電気設備については、必要に応じて埋設管等を整備します。

3-7. 主要施設計画

両公園において、重点的な整備が求められる範囲や施設について、ゾーニングに基づく各エリアの特性を踏まえながら、課題や整備の方向性、内容について整理します。

- (1) 大濠公園北側
- (2) くじら公園～西側広場
- (3) 舞鶴中学校跡地・城内住宅
- (4) 舞鶴公園線沿線
- (5) 福岡城本丸・二ノ丸周辺
- (6) 鴻臚館跡
- (7) 福岡高等裁判所



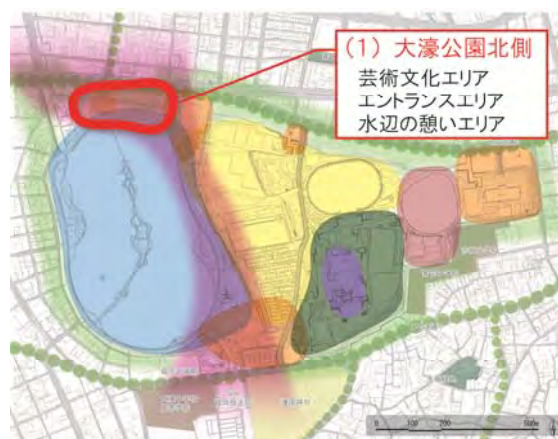
図：主要施設計画位置図

(1) 大濠公園北側

○位置づけ

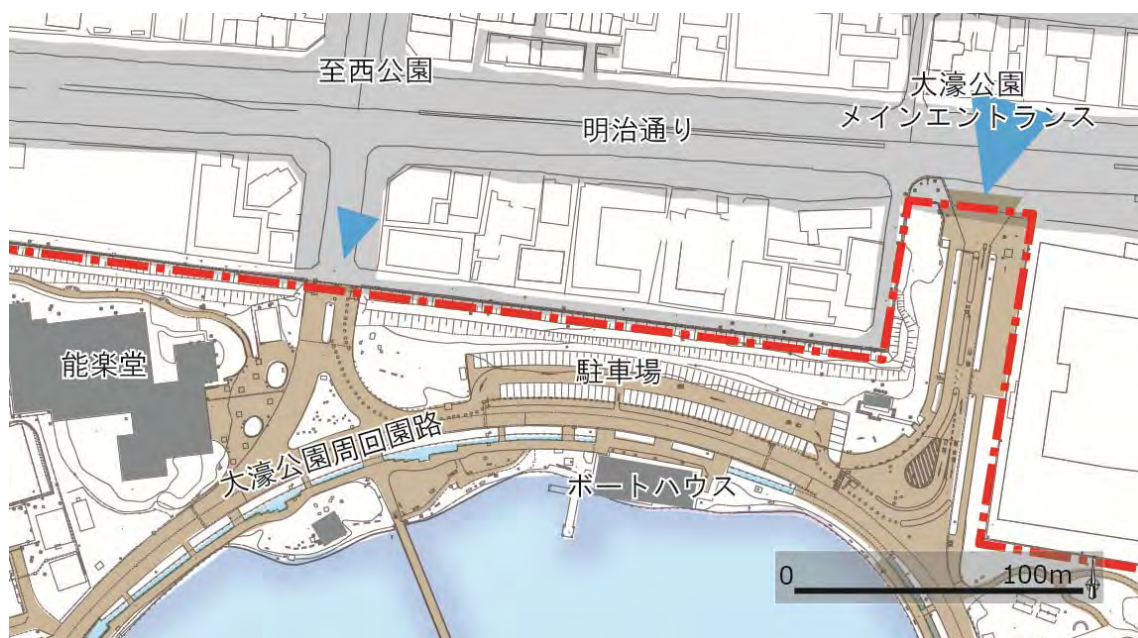
大濠公園北側は、地下鉄大濠公園駅から近く、明治通り側からのメインエントランスとして歩道や駐車場などが整備されています。芸術文化エリア、エントランスエリア、水辺の憩いエリアが重なる場所に位置しています。

北西側の入口は、能楽堂利用者が利用する入口にもなっています。



図：大濠公園北側 位置図

○現況と課題



図：大濠公園北側 現況図

- 安全性の向上**：メインエントランスの車両動線と歩行者動線が交錯する個所があるため、車両動線と歩行者動線の整理が求められます。
- 見通しの確保**：メインエントランスから公園内部の様子が見えにくい為、見通しの確保が求められます。
- 能楽堂利用者の利便性向上**：お年寄りや車いす利用者なども能楽堂を利用しやすい整備が求められています。
- 景観の向上**：大濠公園の周回園路利用者から駐車場が見えるため、公園らしさに配慮した景観の向上が求められます。